



東京歯科大学広報



卒業式を無事に終え、笑顔の第119期生：平成26年3月15日（土）、水道橋校舎新館前

第119回卒業証書授与式

第119回卒業証書授与式は、平成26年3月15日(土)午前10時より、水道橋校舎新館血脇記念ホールにおいて挙行され、第119期卒業生123名が学び舎を巣立ち新しい世界へ羽ばたいて行った。今年も卒業証書授与式に先立ち、大学院歯学研究科修了式が執り行われ、滞りなく終了した。



2014年2・3月

265号

本号の主な内容

- ・第119回卒業証書授与式 1
- ・平成25年度口腔科学研究センターワークショップ開催 18
- ・平成25年度大学院歯学研究科修了式 22
- ・歯科衛生士専門学校第63期生卒業証書授与式 27

国歌斉唱後、佐藤 亨学生部長から開式の辞が述べられ厳粛な卒業証書授与式の開始となった。

石井拓男副学長の学事報告に続いて、河田英司教務部長から123名の卒業生が呼名された。緊張の中にもようやくこの日を迎えられたという安堵した卒業生の表情が印象的であった。卒業証書・学位記は井出吉信学長から卒業生代表の大津雄人君に授与された。

続いて褒賞各賞の受賞者（学長賞：大津雄人君、血脇賞受賞者：4名代表大竹智久君、井上 裕賞：田中亜生君、精励賞受賞者：12名代表渡邊豪士君、卒業論文賞受賞者：10名代表岩脇淳志君）に井出学長から賞状及び金メダルが授与された。

その後、井出学長が卒業生へ告辞を述べられ、金子 譲理事長、矢崎秀昭同窓会会長から祝辞が贈られた。また、在校生を代表して岡澤亮平君（5年）から送辞が読み上げられ、これに応じて卒業生代表の



卒業生を代表して卒業証書を授与される大津雄人君：平成26年3月15日（土）、水道橋校舎新館血脇記念ホール



告辞を述べる井出学長：平成26年3月15日（土）、水道橋校舎新館血脇記念ホール



祝辞を述べる金子理事長：平成26年3月15日（土）、水道橋校舎新館血脇記念ホール



血脇賞受賞者4名を代表して大竹智久君が受賞：平成26年3月15日（土）、水道橋校舎新館血脇記念ホール



井上 裕賞を受賞する勉強対策委員長の田中亜生君：平成26年3月15日（土）、水道橋校舎新館血脇記念ホール



精励賞受賞者12名を代表して渡邊豪士君が受賞：平成26年3月15日（土）、水道橋校舎新館血脇記念ホール

大津雄人君が答辞を述べた。

最後に村上 聡混声合唱部部長の指揮、海邊寛之君(1年)の伴奏により出席者全員で校歌を斉唱し、第119回卒業証書授与式は閉式した。

引き続き記念品贈呈式が行われ、大学、同窓会、父兄会からそれぞれ卒業生へ、卒業生一同から大学へ記念品が贈呈された。

式を終えた卒業生は、血協記念ホールで恩師と共に記念撮影をした後、新館第3講義室で卒業生一人一人と各受賞者に一戸達也副学長から賞状・金メダルが授与され、全ての行事が終了した。



卒業論文賞受賞者10名を代表して岩脇淳志君が受賞：
平成26年3月15日(土)、水道橋校舎新館血協記念ホール



在校生を代表して送辞を述べる岡澤亮平君(5年)：
平成26年3月15日(土)、水道橋校舎新館血協記念ホール



同窓会より会員章の贈呈を受ける橋 経国君：平成26年
3月15日(土)、水道橋校舎新館血協記念ホール

学事報告

東京歯科大学

副学長 石井 拓男

現在、本学に在籍する学生は、814名であります。

これらの学生の教育については、専任者として教授56名、准教授46名、講師69名、助教131名、助手2名の合計304名、このほかに臨床教員、客員教員、嘱託教員および非常勤講師の合計552名、合わせて856名が担当しております。

本日、第119回卒業証書授与式において卒業証書を授与される者は、前記在籍者のうち123名であります。これを大学設置以来の卒業生と合わせますと8,729名、専門学校設置以来の卒業生と合わせますと14,742名となります。

なお、高山歯科医学院創立以来の卒業生を通算しますと15,033名となります。

平成26年3月15日

告 辞

東京歯科大学

学 長 井出 吉信

第119期生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。そして、保護者の皆様には、東京歯科大学を代表して、心よりお祝いを申し上げます。

皆さんは、本学において、6年間の充実した教育カリキュラムを通して、最先端の歯科医学・歯科医療の知識・技術を学び、そして医療人として必要なコミュニケーション能力を培ってきました。まずは、このカリキュラムをすべてやり遂げ、数々の難関試験の壁を乗り越えて、この日に至った事は将来に向けて大いなる自信と成る事でしょう。

さて、千葉・稲毛への移転から、32年間の歴史を千葉で刻んできた本学は、創立120周年を機に、伝統の地である水道橋に、新装の3つの校舎を中心とした、新たな水道橋キャンパスとして、東京歯科大学をさらに飛躍させるべく再スタートさせました。諸君たちがこの新血脇記念ホールで行われる最初の記念すべき卒業生です。

本学は臨床研修終了後における大学院での研究体制や、各講座での研修制度も充実しています。また国内外の大学や研究機関との連携の強化も進めており、一昨年には、本学とゆかりの深い慶應義塾大学医学部との間で連携協定を締結するとともに、海外では、多くの姉妹校に加え、今月新たにアメリカ・タフツ大学と姉妹校の協定を結んだところです。

皆さんは、この校舎を生涯教育の場として大いに活用し、これからも研鑽に励み、同窓としての誇りを持って、世界に羽ばたいていってください。そして、後輩たちの目標となるような、実力と人望のある歯科医師として日本の歯科医療を引っ張っていくリーダーを目指して頂きたいと思います。

最後になりますが、皆さんの今後の活躍を祈念して、告辞といたします。

卒業おめでとう。

祝 辞

学校法人東京歯科大学

理事長 金子 譲

卒業生の皆さまおめでとうございます。またご父兄の皆さまも6年間、ご心配のことも多々あったと思いますが、今日のおめでたい日を迎えられましたことをお祝い申し上げます。

皆さんが入学した時、私は学長として訓示を述べましたが、その訓示を覚えていらっしゃる方はいないと思います。学生生活を有意義に使ってほしいという話をいたしました。そしてその有意義ということ、皆さんがどのように自分で見つけられるかという話でしたが、こうして今日皆さんの顔をみますと、様相があの時とは一変しています。とても立派なお顔になっています。6年間学業にスポーツにそして文化活動に、苦しみもあったでしょうが大いに学生生活を楽しんで過ごされたことと思います。

先程、東京歯科大学の卒業生の総数は1万4千数百名と報告されました。大学設置以来、専門学校設置以来、それから高山歯科医学院創立以来というように遡って各々数えられています。明治政府は高等教育を進めるに当たり、まず大学設置を決め、現在の東京大学が設立されました。その後明治30年から帝国大学を各地に作りましたが、私立は大学ではなく各種学校で、明治36年ようやく専門学校令によって私立専門学校が現れます。当時の高等教育の仕組みは大学と専門学校ということです。東京歯

科大学は明治23年創立ですから、最初は各種学校で、後に専門学校となりましたが、政府は専門学校にも大学に準じた教育内容や教員、施設設備と大変厳しい条件を課しました。専門学校設立に際し、全ての学校の目的の一つとしたのが「人格の涵養、陶冶」ですが、これは西洋文化に追いつくということで、国際的なジェントルマンで、人格のある人を育成するということだと思います。その中で血脇先生の「歯科医師たる前に人間たれ」という言葉が出てきたのではないかと思います。

今大きな発見に関する論文が作成された時のコピー & ペーストということが話題になっていますが、この行為は先人の業績をリスペクトする、敬意を払うという根幹が足りなかったのだと思います。論文に限らず、医療の世界では皆さんを指導する人だけではなく患者さんや一緒に働く方々に対しても敬意を払うことが人間関係では重要です。このことは教養教育に繋がると思います。教養を磨くことにより他者への敬意や、自分を知ること、また判断をすることが出来るようになります。皆さんが今後指導者になるためには最も根源的なことと思います。

今後世界は大きく変わっていくことと思います。科学の世界も同様です。皆さんはその変化に対応できるように楽しみながら精進していただきたいと思います。

本日はおめでとうございました。

祝 辞

東京歯科大学同窓会

会 長 矢崎 秀昭

本日、新たに完成しました血脇記念ホールにて開催される第119回の卒業証書授与式に当たり、卒業生ならびに本日まで深い愛情と、大きな期待を持ってお育て賜わったご父兄の皆様、東京歯科大学同窓会を代表して心からお祝い申し上げます。

本日より卒業生の皆様は120年に及ぶ母校と共に、先輩の方々が築きあげてまいりました輝かしい伝統を誇る本学同窓会会員となります。

皆様にとりましては千葉の校舎で友人と共に学ばれた多くの思い出があると思います。しかしながら日本最初の歯科大学として長年にわたり、歯科界をリードしてまいりました、我が東京歯科大学はこの水道橋の地でも、世界に誇る多大な業績を挙げてきております。今後はこの水道橋にある母校を生涯にわたる心の拠り所として、世界に向かって活躍して行って戴くことを願っております。

歯科大学の同窓会は一般の大学の同窓会と異なり、卒業生は生涯にわたって同じ歯科医療や歯科医学の道を歩むこととなります。

母校の中興の祖であります血脇守之助先生の「同窓は生涯にわたって共に助け合い、さらに高め合ってゆく」との血脇イズムを軸として同窓会が存在しております。

現在全国には9,000名を超える同窓会会員がおられます。そして全国どこの地域におきましても新たに同窓会員となります卒業生の皆様を、心から歓迎し、その地域の同窓会支部に入会することを心待ちにしております。全国の同窓会各支部におきましては、主として母校の先生をお招きしての講演会を開催したり、懇親会や家族をも交えた各種レクリエーションなど多彩な活動をしております。

卒業して5年間程度は大学や、研修機関、診療所などで将来に向かっての研修をしていることが多いとおもいます。同窓会ではこの期間を同窓会の新進会員として、本部同窓会にて若手のための研修会や症例検討会など直接卒業生の皆様と出来るだけ交流を深めるための多彩な企画をしております。

現在、同窓会アカデミア構想のもと、技術的なことから、社会における医療体制のこと、医療人とし

て身につけておくべき社会的知識のことなど幅広く、皆様が、一流の歯科医師となる手助けをすることを目指しております。

今日の歯科医療は単に口腔の治療を行うだけでなく、超高齢社会において、口腔機能を充実させることにより、健康で長生き出来る健康寿命への貢献が社会的に必要となっております。

同窓会のホームページなどを通じて、卒業生の皆様のご意見を出来るだけ多く同窓会へお寄せ戴き、今後の会の運営に生かしてゆきたいと思っております。

卒業生の皆様が東京歯科大学の同窓としての誇りを持って、素晴らしい活躍をすることを心から期待申し上げます。

送 辞

在校生代表

岡澤 亮平

厳しかった寒さも徐々に和らぎ、頬にふれる風も日に日に暖かさを増してまいりました。

卒業生の皆さん、本日はご卒業おめでとうございます。在校生を代表して、心よりお祝い申し上げます。5年前、不安一杯のまま入学した私達に先輩方が優しく声をかけて下さったのが、つい先日のことのように思い出されます。

その後は、日々の大学生活や部活動の中で、皆さんから厳しさの中にこそ楽しさや喜びがあるということ、お互いに信頼しあい最後まで諦めないこと、仲間と切磋琢磨しながら自分の限界点を高めていくこと、幾つもの素晴らしさを教えていただきました。

共に過ごしたこの5年間は何事にも変えられない大切な思い出となっております。

さて、みなさんはこれから歯科医師としての人生がスタートし、希望や夢に胸を膨らませていることでしょう。

時に大きな壁や困難に直面することもあるかもしれませんが、毎日夜遅くまで努力し、大変な試験を突破してきた先輩たち乗り越えられないものは無いと思います。

いつも身近でご指導して下さった先輩方とお会いできなくなることは、本当に寂しいことですが、私達在校生は皆さんから学んだことを忘れず、本学の素晴らしい伝統を引き継ぎ後輩たちへとバトンタッチ出来るよう、そして1年後に医療の現場で先輩方に成長した姿を見て頂けるよう頑張っていきたいと思っております。

最後になりましたが、ご卒業される皆様のより一層のご活躍とご健康をお祈りし、送辞とさせていただきます。

答 辞

第119期卒業生代表

大津 雄人

寒さも徐々にやわらぎ、日増しに春めいて参りました。

本日は、私たちの卒業証書授与式に、ご来賓ならびに諸先生方をはじめ多数の皆様のご臨席を賜り、卒業生一同、心より厚く御礼申し上げます。

只今、井出学長の告辞、そして金子理事長をはじめご来賓の皆様より励ましのお言葉を頂き、身の引

き締まる思いでございます。また、在校生から心温まる送辞を頂きありがとうございますございました。

私たちが東京歯科大学に入学したのは今から6年前のことでした。着慣れないスーツを身にまとい、初めて見る同級生たちにぎこちなく挨拶し、これから始まる大学生活に多少の不安と大きな期待を抱いた日のことが、つい先日のことのように思い出されます。

学生生活を振り返ると、私たちは様々なかけがえのない経験をして参りました。

1年生の頃、勉学においてはただひたすら基礎を学び、そしてそれ以外の時間は、部活動に励みました。それぞれの部活動で、色は違うかもしれませんが、かけがえのない先輩、後輩、そして同学年の仲間に出逢えたことは、皆同じではないかと思えます。

2年生になり、初めて歯科に関する授業を受けることとなり、東京歯科大学での授業に圧倒され、益々歯科医学への興味が湧いたことを覚えています。

3年生になると、手を動かしての実習が始まります。決して楽しいことばかりでは無く、困難や辛いことも多々ありました。仲間同士で助け合い困難を乗り越えた事を思い出します。無我夢中で取り組んだ実習は、その後の私たちの勉学においての大きな支えとなりました。

4年生では、座学の時間も増え、更に歯科に関して知識を増やしていきました。定期試験、総合試験、CBT、OSCEを乗り越え、この頃から少しだけ国家試験というものの存在を感じるようになっていた気がします。部活動では引退をかけ、仲間と共に汗をかき涙を流したことは私達の一生の宝物です。

5年生となり、病院で実際に患者さんと向き合う登院が始まりました。授業で学んだことを実践する毎日で、初めて自分で患者さんに触れさせて頂き、患者さんからの感謝の言葉に一喜一憂したこと、そして、上手く行かず落ち込んだ時には笑顔と元気をくれる仲間がいてくれたことを思い出します。

そして6年生となり、私たちはよいよ国家試験を目の前に迎えることとなります。学年主任、副主任の先生方の熱い指導はもちろんですが、勉強委員長やその他の勉強委員の方々の姿を見て、本当に学年がひとつになっているように感じていました。皆で同じ目標を掲げ、今まで以上に一致団結して勉学に励み、あっという間に6年生としての1年間が過ぎていきました。

今日、私たちは卒業の日を迎えます。この6年間が今、一瞬のこの様に短く思えるのは、東京歯科大学での学生生活が本当に充実していたからだと改めて実感します。このようなかけがえのない思い出を作ることができたのもいつも温かく、そして厳しくご指導、ご支援して下さった先生方、職員の方々、家族、そして友人のお陰だと思えます。本当に心から感謝しています。

これからは123名、それぞれ自分で決めた道を歩むこととなります。しかし、本学の建学の精神である「歯科医師たる前に人間たれ」という言葉を忘れることなく、東京歯科大学の卒業生であるという誇りを胸に、日々精進して参りたいと思えます。

最後になりましたが、私たちの大学生活に関わって下さった全ての方々に、改めて深く御礼申し上げます。

そしてこれからもどうか私たちを温かく見守っていて下さい。

皆様の期待に応えられるよう日々努力することをお約束し、またゆかりの地、東京水道橋へ移転する東京歯科大学の更なる発展を祈念して、答辞とさせていただきます。

■教授定年退職のご挨拶

平成26年3月31日をもって、薬理学講座 川口 充教授、歯科理工学講座 小田 豊教授、衛生学講座 松久保 隆教授、法歯学講座 水口 清教授、市川総合病院泌尿器科 丸茂 健教授、同リプロダクションセンター（泌尿器科）石川博道教授が定年を迎えられ、退職された。

定年退職のご挨拶



薬理学講座

川口 充

この度、大過なく定年退職を迎えるに当たり、諸先輩の先生方、ご活躍の先生方のご支援に心から感謝致します。私の研究生活は学部1年(現3年)の時に「もしコーヒーの飲みすぎで痙攣(中枢神経興奮)が起きた時に酒を飲んだら(中枢神経抑制)拮抗作用により命が救えるか」という命題を掲げ「カフェインとエタノール(酒精)の相互作用」の卒業論文研究を行ったのが始まりでした。両者をラットに大量に投与するとカフェインの痙攣作用はエタノールにより起こらなくなるが、エタノールの代謝障害によりアセトアルデヒドの蓄積が起こり、死亡率が高くなるという結論でした。血中のアセトアルデヒドの抽出・定量に一夏没頭したのを思い出します。生体から目的の有機化合物を抽出して定量することは、高校生以来の憧れでしたが、その世界へ踏み込めたことへの自信が、生体物質の定量解析を機軸とする薬理学研究を行う力となりました。ご指導くださったのは堤教授。忙しい中にも、考える余裕のある精神的に豊かな学生生活を送れた時代でした。卒業後は体温調節と神経モノアミン、唾液腺の神経調節、NIH留学で学んだ唾液イオン輸送、帰国後20余年間の口腔乾燥・唾液腺GABA・ベンゾジアゼピン受容体に関する研究で今を迎えました。

唾液腺のGABA・ベンゾジアゼピン受容体の研究に集中したのは、当時の神経薬理学者が提示した神経伝達物質と受容機構を決定する条件に沿って研究を進めようと考えたことに始まります。一つの目標に向けて、色々な角度から実証していくという理論構築の仕方に魅力を感じたからです。時間はかかりましたがGABA受容体、ベンゾジアゼピン受容体の存在と唾液分泌調節機構を明確に

示すことができました。

言うまでもなく研究・教育に、環境は重要な要因となります。千葉校舎の広さと設備の多様性は、旧水道橋校舎の狭隘で不自由な研究生活を解消してくれました。特に見明先生、西村先生が設置に努力されたアイソトープ実験施設は我々の研究の生命線でした。

本学での研究生活は、水道橋に始まり、水道橋に終わるという皮肉な結果となりました。前者では千葉移転への違和感、後者では縮小への抵抗感です。しかし稲毛の30年は、大学の隆盛の中で研究と教育に全精力を傾注できたことは、実に幸運であったと思います。

最後に、基礎医学の研究を志す方々には、先人に医学部卒業の後、理学部に再入学して研究の基礎学力を磨いた京都大学医学部生化学の早石 修先生のような研究者がいたことを心の隅に置かれて、物理化学の知識の習得に精進し、研究・教育に励まれんことを祈念してご挨拶と致します。

略歴

最終学歴および学位

昭和50年 3月31日 東京歯科大学卒業
昭和55年 6月 1日 歯学博士の学位受領(東京歯科大学)

資格

昭和50年 5月 1日 第57回歯科医師国家試験合格(歯科医籍登録 第68063号)

教職歴

昭和50年 5月 1日 東京歯科大学薬理学講座助手(体温調節機構を機能的に修飾する半導体元素の薬理作用機序に関する研究に従事)
昭和54年 4月 1日 東京歯科大学薬理学講座 講師
昭和56年 4月 1日 東京歯科大学薬理学講座 助教授
平成 2年 4月 1日 東京歯科大学薬理学講座主任教授(兼任講師)
昭和54年 4月 1日 東京歯科大学歯科衛生士専門学校 非常勤講師(現在)
平成 9年 4月 1日 静岡県立大学短期大学部 非常勤講師(現在)
平成19年 4月 1日 埼玉県立短期大学歯科衛生士学科 非常勤講師(現在)

(特別講義)

平成 9年 7月18日 北海道医療大学歯学部薬理学
平成10年 6月19日 鹿児島大学歯学部薬理学
平成10年 7月17日 北海道医療大学歯学部薬理学
平成18年12月 6日 日本大学薬学部大学院
平成18年12月11日 大阪歯科大学中央歯学研究所
平成19年 7月13日 広島大学歯学部薬理学
平成19年11月29日 九州大学歯学部大学院

その他の職歴

昭和60年 1月 1日 アメリカ合衆国 National Institutes of Health (NIH)における客員研究員(昭和60年12月31日まで)

学内役職

昭和53年 6月 1日 大学広報委員(昭和59年12月31日まで)
平成 3年 6月 1日 歯科学報編集委員(平成15年5月31日まで)
平成 4年 6月 1日 東京歯科大学学生部副部長(平成7年3月31日まで)

平成 7年 6月 1日	東京歯科大学実験動物施設管理部長(平成10年5月31日まで)	平成16年 7月 1日	歯科医師予備試験委員(平成24年6月30日まで)
	東京歯科大学学生部副部長(平成9年4月30日まで)	平成17年 7月 1日	歯科医師試験プール問題ブラッシュアップ委員(平成24年6月30日まで)
平成 9年 5月 1日	東京歯科大学学生部長代行(平成10年5月31日まで)	平成19年 8月20日	歯科衛生士試験委員(平成24年6月30日まで)
平成10年 6月 1日	東京歯科大学口腔科学研究センターグループコーディネーター(平成13年5月31日まで)	平成20年 2月28日	医道審議会専門委員(歯科医師国家試験出題基準改定部会)(平成22年1月31日まで)
平成10年 6月 1日	東京歯科大学研究部長(平成16年5月31日まで)	平成20年 7月 1日	歯科医師予備試験委員会 委員長(平成24年6月30日まで)
平成13年 6月 1日	東京歯科大学学会 会計担当理事(平成16年5月31日まで)		(日本歯科医師会)
平成16年 6月 1日	東京歯科大学基礎教授連絡会幹事(平成22年5月31日まで)	平成 3年 4月 1日	器材薬劑室薬劑部会委員(平成6年3月31日まで)
	東京歯科大学研究機器管理部長(平成19年5月31日まで)		学会・財団役員
平成19年 6月 1日	東京歯科大学大学院研究科教務部長(平成22年5月31日まで)		(日本薬理学会): 評議員(現在)
平成22年 6月 1日	東京歯科大学環境衛生管理部長(現在)		編集委員(平成12年4月1日～平成14年3月31日)
			日本薬理学会関東部会 部会長(平成15年10月～平成16年6月)
学年主任・副主任			研究推進委員(平成16年4月1日～平成18年3月31日)
昭和57年 4月 1日	東京歯科大学第91期生第3学年副主任		日薬理誌企画協力員(平成16年4月1日～平成20年3月31日)
昭和58年 4月 1日	東京歯科大学第91期生第4学年副主任(平成59年3月31日まで)		JPS advisory board(平成16年4月1日～平成22年3月31日)
			JPS編集委員(平成20年4月1日～平成22年3月31日)
平成 2年10月 1日	東京歯科大学第100期生第2学年主任		研究推進委員(平成22年4月1日～平成24年3月31日)
平成 3年 4月 1日	東京歯科大学第100期生第3学年主任		教育企画委員(平成24年4月1日～現在)
平成 4年 4月 1日	東京歯科大学第100期生第4学年主任(平成25年3月31日まで)		(歯科基礎医学会): 評議員(現在)
			企画委員(平成12年4月1日～平成15年3月31日)
平成10年10月 1日	東京歯科大学第108期生第2学年主任		監事(平成15年4月1日～平成18年3月31日、平成21年4月1日～平成24年3月31日)
平成11年 4月 1日	東京歯科大学第108期生第3学年主任		常任理事(平成18年4月1日～平成21年3月31日)
平成12年 4月 1日	東京歯科大学第108期生第4学年主任(平成13年3月31日まで)		平成19年度歯科医学教授要綱改訂委員会薬理学分野世話人(平成19年8月1日～平成20年3月31日まで)
			(日本歯科薬物療法学会): 評議員(現在)
平成18年 4月 1日	東京歯科大学第115期生第3学年主任		理事(現在)
平成19年 4月 1日	東京歯科大学第115期生第4学年主任(平成20年3月31日まで)		歯科用医薬品編集委員(平成16年1月1日～平成17年12月31日)
			教育委員会委員(平成16年1月1日～平成17年12月31日)
学外役員			学術奨励賞選考委員会委員長(平成20年1月1日～現在)
(文部省・文部科学省、日本学術振興会)			第31回日本歯科薬物療法学会大会長(平成23年6月1日～平成24年5月31日)
平成 8年 1月21日	学術審議会専門委員		(東京歯科大学学会): 評議員
平成11年 1月 1日	科学研究費委員会専門委員(平成22年12月31日まで)		会計担当理事(平成13年6月1日～平成16年5月31日)
平成20年 1月 1日	特定領域研究中間・事後評価委員(平成21年12月31日まで)		(日本歯科医学会):
平成21年 4月 1日	大学設置分科会専門委員(21年度、22年度、23年度)(平成24年 3月31日まで)		歯科用語集編集委員(平成18年4月1日～平成21年 3月31日)
			(岩垂有英会): 評議員(平成5年4月1日～現在)
(厚生省・厚生労働省、歯科医療研修財団)			(日本唾液腺学会): 評議員(現在)
平成10年 7月 1日	歯科医師試験委員(平成24年6月30日まで)		(日本神経精神薬理学会): 評議員(現在)
平成15年 4月 1日	医道審議会専門委員(平成17年3月31日まで)		(日本歯科医学教育学会): 評議員(現在)

定年退職のご挨拶



歯科理工学講座

小 田 豊

昭和48年4月に歯科理工学講座の助手として採用され、平成9年に住井俊夫教授の後を引継ぎ3代目の歯科理工学講座の主任教授として、17年間歯科理工学の研究と教育を担当させていただきました。通算41年間本学に在職し、このような場と機会を与えて下さいました金竹哲也名誉教授(初代歯科理工学講座主任)はじめ、先輩、同僚の先生方および関係各位に心から感謝いたします。

本学の歯科理工学講座は、国内外の歯科大学と

比較しても金属関係の研究機器と設備が際立っており、私自身もチタンの歯科応用を主なテーマとして、研究活動を行ってきました。チタン合金が歯科医療に確固とした地位にある今、チタンに関わる国内外の多くの研究者と交流し、知己を得られたことは幸いでした。

学内では平成10年学生副部長、平成16年教務部長に任命されました。在任中、日本の歯科医学教育改革が叫ばれる中で、他大学の先陣を切って文部科学省の「特色ある大学教育支援プログラム(特色GP)」、「現代的教育ニーズ取組支援プログラム(現代GP)」の採択に貢献できたことは、好機に恵まれたと思っております。

学外では日本歯科理工学会会長、JADR(国際歯科研究学会日本部会)会長など学会の指導的役割を経験させていただき、また、本学の多くの先輩諸氏のご指導のお陰で、日本歯科医師会材料規格委員長、ISO/TC106 日本議長などの役目も務

めさせていただきます。

120周年記念事業の際は「広報記録部会」を担当し、「Sustainable development」という言葉にヒントを得て「継承と発展」の事業テーマを提案させていただきました。次の記念事業は130周年か150周年か定かではありませんが、教育・研究・臨床の何れの面でも、本学の優れた遺産を継承し、持続可能性のある発展に向けて、関係各位がご活躍されることを祈念して、退任の挨拶とさせていただきます。

略歴

学歴

昭和46年 3月 富山大学文理学部理学科(物理学専攻)卒業
昭和59年10月 歯学博士の学位受領(東京歯科大学)

職歴及び研究歴

昭和46年 4月 1日 富山県立魚津高等学校講師
昭和48年 4月 1日 東京歯科大学歯科理工学講座助手

昭和54年 4月 1日 東京歯科大学歯科理工学講座講師
平成 2年 4月 1日 東京歯科大学歯科理工学講座助教授
平成 3年 5月22日 ベイラー歯科大学(アメリカ合衆国)客員研究員
平成 9年 1月 1日 東京歯科大学歯科理工学講座主任教授

学内における経歴等

平成 9年10月 1日 第2学年学年主任
平成10年 4月 1日 第3学年学年主任
平成10年 6月 1日 環境安全部長
平成10年 6月 1日 学生部副部長
平成11年 4月 1日 第4学年学年主任
平成13年 6月 1日 口腔科学センター研究機器管理部長
平成16年 6月 1日 教務部長
平成22年 6月 1日 学会・学術出版部長

学会及び社会における活動

平成13年 9月 1日 日本歯科医師会器材部会・材料規格委員長
平成15年 1月23日 薬事・食品衛生審議会臨時委員
平成16年 4月 1日 日本歯科理工学会会長
平成18年 5月19日 大学設置・学校法人審議会専門委員(大学設置分科会)
平成18年 8月15日 日本学術会議連携会員
平成19年 1月 1日 JADR (国際歯科研究学会日本部会)会長
平成25年 9月 1日 ISO/TC106 日本議長

受賞・表彰

平成19年 5月12日 日本歯科理工学会学会賞

定年退職のご挨拶



衛生学講座

松久保 隆

昭和48年4月に口腔衛生学講座に大学院生として入学以来41年が瞬く間に経過し、本年3月31日で定年退職いたしました。この間、東京歯科大学の教員としての責務を果たすことができたのは講座の関係者、大学職員ならびに口腔衛生学関係の諸先生方のご指導とご支援があったからであり、心から感謝の意を表したいと思います。とくに、竹内光春教授、高江洲義矩教授ならびに高添一郎教授のご指導を受けて教育ならびに研究活動ができたことは本当に幸せであったと感謝を申し上げます。

大学院修了後、微生物学講座での研究から当時砂糖に代わる代用糖としてのカップリングシュガーの研究班に加わりながら、食品のう蝕誘発能の研究をスタートさせると同時にシヨ糖代用甘味料の歯垢下での酸産生能の評価方法を確立し、多くの特定保健用食品の許可につながりました。また、ミュータンス・レンサ球菌の管壁付着能を利

用した簡易測定法を考案し、市販されています。これらの研究から、Cariologyの世界的な権威であるUCSFのNewbrun教授との共同研究を1982-83年にかけて行うことができ、多くのCariologyの関連研究者と交流をいたしました。

卒業当時はわが国のう蝕の有病状態は最も高い値を維持しており、う蝕予防など不可能に近いといわれておりました。平成に入り、歯科疾患の疾病構造が大きく変化しました。この41年間を振り返って最も大きな変化は、若年者のう蝕激減と成人の現在歯数の著しい増加です。また、最近では、わが国の公衆衛生活動の中に“歯・口腔の健康“の重要性が認識されるようになったことがあげられます。今後の口腔衛生学の領域に携わるものの課題は、定期的受診と本格的な歯科疾患の予防が歯科診療に加わる時代に対応することが必要です。

最後に、東京歯科大学のますますの発展と関係各位ご活躍とご健勝をお祈り申し上げ、退職の挨拶といたします。

略歴

学歴

昭和42年 3月 愛知県東海高等学校卒業
昭和42年 4月 東京歯科大学入学
昭和48年 3月 東京歯科大学卒業(歯学士)
昭和48年 4月 東京歯科大学大学院歯学研究科入学(口腔衛生学専攻)
昭和50年 5月 微生物学講座へ研究のため出向
昭和52年 3月 東京歯科大学大学院歯学研究科修了(歯学博士の学位受領)

資格・免許

昭和48年 6月 歯科医籍登録(第63550号)
平成13年 8月 日本口腔衛生学会認定医

平成21年 4月 日本口腔衛生学会指導医(地域保健、予防歯科)
平成21年 4月 日本全身咬合学会指導医

職歴および研究歴

昭和52年 4月 東京歯科大学口腔衛生学講座助手
昭和53年 4月 東京歯科大学口腔衛生学講座講師
昭和54年 5月 東京歯科大学口腔衛生学講座助教授
昭和57年 3月 アメリカ合衆国カリフォルニア大学サンフランシスコ校(UCSF)歯学部
客員助教授(昭和58年(1983)2月まで)
平成 2年 4月 東京歯科大学衛生学講座助教授(講座併合)
平成13年 4月 東京歯科大学衛生学講座主任教授(平成26年3月まで)
平成22年 4月 東京歯科大学図書館長現在に至る

学内における経歴

昭和61年 6月 東京歯科大学欧文紀要編集委員(平成10年5月まで)
平成元年 4月 第3,4学年学年副主任(平成2年3月まで)
平成 7年 6月 教務部副部長(平成10年5月まで)
平成 7年 6月 情報システム管理委員会委員長(平成12年6月まで)
平成10年 4月 ラグビー・フットボール部部長(平成26年3月まで)
平成11年 6月 臨床教育作業部会委員(平成15年3月まで)
平成12年10月 卒前・卒後臨床作業部会委員(平成15年3月まで)
平成13年 6月 環境衛生部長(平成16年5月まで)
平成13年10月 第2,3,4学年学年主任(平成16年3月まで)
平成16年 6月 広報部長(平成19年3月まで)
平成22年 4月 図書館長(平成26年3月まで)

学会活動

昭和54年 5月 東京歯科大学学会評議員(現在)
昭和54年 9月 日本口腔衛生学会評議員(平成25年3月まで)
昭和60年 7月 口腔衛生学会雑誌編集委員(平成13年3月まで)
平成 2年 1月 日本咀嚼学会総括委員(平成9年1月まで)
日本咀嚼学会編集委員長(平成8年12月まで)
平成 9年 5月 日本咀嚼学会常任理事(平成25年3月まで)

平成 9年 4月 日本口腔衛生学会理事(平成25年3月まで)
平成 9年 4月 口腔衛生学会雑誌編集委員(平成11年3月まで)
平成13年 4月 日本口腔衛生学会常任理事(平成19年3月まで)
平成13年 4月 日本歯科医学会理事(平成16年3月まで)
平成13年10月 日本全身咬合学会評議員(現在)

社会における活動

平成 5年 3月 日本トウモロコシフレンドリー協会理事(広報委員長)(現在)
平成 5年 6月 東京都「西暦2000年の歯科保健目標」到達度調査委員会委員(平成6年6月まで)
平成 9年 8月 千葉市歯科疾患実態調査調査検討委員会委員長(平成12年3月まで)
平成 9年10月 私立大学情報協会歯学情報教育研究委員会委員(現在)
平成10年 1月 食品新素材協議会学術委員(現在)
平成10年 4月 厚生省日本健康・栄養食品協会(特定保健用食品学術専門委員)(平成12年5月まで)
平成11年 9月 東京都保健対策推進協議会専門部会委員(平成13年12月まで)
平成12年 4月 平成12年度特別用途食品検討委員会委員(厚生省)(現在)
平成13年 4月 健康日本21・千葉市計画策定検討専門員(現在)
平成13年 8月 歯科衛生士試験員(平成19年8月まで)
平成14年 4月 8020誌広報委員会開始編集部会副委員長(平成16年3月まで)
平成15年 4月 足立区歯周病健診評価事業検討委員会委員長(平成20年3月まで)
平成18年 1月 千葉県歯科医師会口腔保健(食育)円卓会議議長(平成25年3月まで)
平成21年 4月 東京都学校歯科医学会学術普及研究委員会(平成22年3月まで)

定年退職のご挨拶



法歯学講座

水 口 清

昭和49年に本学を卒業後、40年経過し、このたび定年を迎えました。やはり長い時間であったように思います。卒業時、大学院生の道を選び、鈴木和男教授の法歯学教室に残り、それ以来、研究・教育に携わって参りましたが、この間の多くの諸先輩方、講座の同僚、講座の大学院生、さらに教室員の関係各位のご指導と、ご支援に対し心より御礼申し上げます。

昭和61年から1年3ヶ月間、海外出張としてトロント大学医学部生化学教室に研究に行かせていただいたことは、今になると様々な意味で非常に多くの経験と、影響を与えてくれた機会であったと思ひ起こされ、大学のご配慮に対し非常に感謝しております。

法歯学には、研究と共に鑑定の仕事があり、最終的に鑑定件数は750件を越していました。特に件数の多いものは、厚生労働省の戦没者遺骨のDNA鑑定でしたが、この鑑定はその必要性からではありますが、見方によっては私の研究テーマに新たな変化を与えてくれることにもなりました。さまざまなことに多くの思い出がありますが、研究の内容と共に鑑定の内容が広がり、鑑定の増加と共に研究の内容が変わってきました。また、いくつかの難しい事件にかかわり、鑑定結果を出すためにいろいろ考え、1つの鑑定に長期間考え続けて解決し、裁判で鑑定内容が認められたことも今になると、良い思い出になっているようにも思えます。

また、私の研究は歯科的にはIADRが主体でしたが、最終的には講座の性質上、日本法医学会と日本DNA多型学会が主体となって今日を迎えました。特に日本DNA多型学会は、医科、歯科以外に、動物、植物、水産、臨床医科、科学捜査研究所、その他の幅広い分野の研究者と20年ほどかかわることになり、歯科以外の人たちと学会で触れ合う機会が非常に増えました。これも、私にとっては楽しい研究人生を送らせていただいたも

とになっていると思っています。

また、私の仕事の関係上、社会的な関わりの時間が多かったことは事実ですが、教育上は、特に学年主任をした学年の学生とは深くかかわることになり、講義のみでない楽しみを与えてくれました。

いろいろな思い出は多く、思いつくままの挨拶となってしまうました。末筆ながら、東京歯科大学の益々の発展、皆様のご健勝をお祈りいたしまして、退任のご挨拶に代えさせていただきます。

略歴

学歴

昭和42年 3月	私立聖光学院高等学校卒業
昭和43年 4月	東京歯科大学入学
昭和49年 3月	東京歯科大学卒業
昭和49年 4月	東京歯科大学大学院歯学研究科(法歯学専攻)入学
昭和53年 4月	東京歯科大学大学院歯学研究科(法歯学専攻)修了
昭和53年 4月	歯学博士の学位受領(東京歯科大学)

資格・免許等

昭和49年 5月	第55回歯科医師国家試験合格
昭和49年 7月	歯科医籍登録(第65861号)

職歴及び研究歴

昭和49年 4月	東京歯科大学大学院歯学研究科(法歯学専攻)入学
昭和51年 9月	自治医科大学法医学教室研究生(昭和52年9月まで)
昭和53年 4月	東京歯科大学大学院歯学研究科(法歯学専攻)修了
昭和53年 5月	東京歯科大学法歯学講座助手
昭和54年 4月	東京歯科大学法歯学講座講師昇任
昭和60年 4月	東京歯科大学法歯学講座助教授昇任
昭和61年 4月	大学の命によりトロント大学医学部生化学教室海外出張

トロント大学歯学部 Visiting Professor (昭和62年6月まで)	
平成 4年 4月	東京歯科大学法歯学講座主任代行
平成 6年 1月	東京歯科大学法歯学講座主任教授昇任

学会及び社会における活動

昭和56年 5月	日本法医学会評議員(平成26年3月まで)
平成 5年11月	電気泳動学会評議員(現在)
平成 6年12月	日本DNA多型学会評議員(平成17年11月まで)
平成 8年 8月	International Organization of Forensic Odontology (IOFOS)(国際法歯病理学会) Election Member (平成12年まで)
平成10年 6月	Bulletin of Tokyo Dental College編集主任(平成 26年3月まで)
平成11年 1月	Legal Medicine, Editor (平成 18年3月まで)
平成11年12月	日本DNA多型学会第8回学術集会大会長
平成15年10月	千葉県歯科医師会災害対策警察歯科委員会顧問(現在)
平成17年 4月	戦没者遺骨のDNA鑑定人会議委員(現在)
平成17年12月	日本DNA多型学会監事
平成18年 6月	全国警察歯科医会連合会顧問(平成21年3月まで)
平成18年 4月	Legal Medicine, Associate Editor (現在)
平成20年 4月	厚生労働省戦没者遺骨のDNA鑑定人会議座長(現在)
平成20年10月	日本法医学会関東地方会会長(平成21年10月まで)
平成20年12月	日本DNA多型学会会長(平成23年12月まで)
平成22年12月	日本DNA多型学会 DNA鑑定検討委員会委員長(平成24年2月まで)
平成23年12月	日本DNA多型学会監事(現在)

賞罰

昭和55年11月	第19回電気泳動学会児玉賞受賞 「唾液蛋白および唾液酵素遺伝標識の電気泳動法による検出と遺伝学ならびに法医学的意義」
昭和60年10月	群馬県警察本部長より感謝状(日本航空機事故の身元識別に対して)
昭和62年 2月	外務大臣より感謝状(南アフリカ航空機事故の身元識別に対して)
平成15年12月	海上保安庁長官賞(鹿児島沖不審船に関連する遺体の鑑定に対して)

定年退職のご挨拶



市川総合病院泌尿器科

丸 茂 健

平成26年3月末日をもちまして市川総合病院を定年退職致します。平成17年4月からの9年間、事務部、臨床検査科、薬剤部、看護部はじめ、多くの皆様に大変にお世話になりました。臨床で皆様に助けて頂いたことはもとより、毎年の病院旅行、クリスマス会、お花見会など衣装を着て仲間に入れて頂いたことなど、思い出せば楽しいことばかりでした。

市川総合病院ではスタッフ5人という恵まれた環境で診療に携わることができました。また東京

歯科大学の歯科学生に泌尿器科の講義を行うことに加え、6人ずつローテーションしてくる学生に小講義と、模型を使用して学生に体験させる導尿の実習なども受け持ち、自分の務めとも思っております教育に関わることができました。

私は日本の政治家である後藤新平(1857年～1929年)が亡くなる3日前に残した言葉が好きです。「よく聞け、金を残して死ぬ者は下だ。仕事を残して死ぬ者は中だ。人を残して死ぬ者は上だ。良く覚えておけ。」です。私は生涯、借家の集合住宅住まいですが、やはり昭和大学で教員をしている家内と話す時があります。少ない財産は私たちが死んだらいずれ消えてしまうものだが、活字は永遠に残ると。数えれば論文が329編、学会発表が542題となりました。これまで退任の最終講義を行う教室の先輩に花束をおわたしするたび、あこがれていた花道が、教務課の計らいで実現しました。

平成26年4月からは住まいの近く、大田区のビルで開業医としての診療を始めます。泌尿器科医

となって以来、勤務先が変わること15回を数えました。今回も新たな環境を迎えるにあたり、胸が高鳴ります。これからも、どうぞご指導賜りますよう、お願い申し上げます。

略歴

学歴・職歴

昭和51年(1976) 慶應義塾大学医学部卒業

昭和57年(1982) ドイツ連邦共和国ビュルツブルク大学
泌尿器科に留学
平成12年(2000) 慶應義塾大学医学部助教授(泌尿器科学)
平成17年(2005) 東京歯科大学市川総合病院泌尿器科教授

主催学会

平成 8年 3月 第6回日本性機能学会東部地方会会長
平成24年 9月 日本性機能学会第23回学術総会会長
平成25年11月 8th Japan-ASEAN Conference on Men's Health and Aging
第13回日本Men's Health医学会

定年退職のご挨拶



市川総合病院
リプロダクション
センター (泌尿器科)

石川 博 道

平成3年4月に前任の筑波大学泌尿器科から市川総合病院泌尿器科(旧病院)に転任いたしました。当然泌尿器科は当病院にはなかったためひとりでいろいろ準備をして泌尿器科外来を始めました。1年後に新病院が開設され泌尿器科医も私を含め4名となり、通常の診療が開始されました。当泌尿器科では私の専門である男性生殖学を含め幅広く診療を行われ患者さんの数も急増して忙しい毎日を過ごすようになりました。一方産婦人科では大野先生以来の伝統で不妊症例が多く、男性不妊症例も日に日に増えてきました。このような状況の中で高橋正憲病院長を中心にリプロダクションセンターの構想が持ち上がり、平成14年3月に私はセンター長にさせていただきました。当センターは不妊をカップルの単位でみるという日本で唯一の機能もつと同時に小児科医による遺伝相談が受けられるという画期的な施設として平成

14年4月に開業し、現在でもこのような理念での診療が行われています。また男性側では全国でも珍しいがん化学療法での精子に対する障害を考慮した治療前精子凍結保存を開始し、現在では数百例の精子が保存されています。さらに男性更年期、EDなど多方面の診療を行っています。このような画期的な施設に10年以上かかわらせていただいたことは非常に光栄でありますとともに、私を支えてくださったスタッフの皆様、いろいろご協力いただいた病院の方々から心から御礼申し上げます。今後私は一般病院で泌尿器科医として診療にあたるつもりですが、リプロダクションセンターでも週1回非常勤で診療させていただき、微力ながらセンターの発展に寄与したいと考えておりますのでよろしくお願いいたします。

略歴

学歴

昭和49年 3月 慶應義塾大学医学部卒業

職歴

昭和49年 6月 慶應義塾大学医学部泌尿器科助手
昭和56年 4月 国立霞ヶ浦病院泌尿器科医長
昭和58年 4月 筑波大学臨床医学系講師(腎泌尿器グループ)
昭和61年 7月 カリフォルニア大学サンフランシスコ校研究員
昭和62年 7月 済生会水戸総合病院泌尿器科部長
昭和63年 4月 筑波大学臨床医学系講師(腎泌尿器グループ)
平成03年 4月 東京歯科大学市川総合病院泌尿器科助教授
平成14年 3月 東京歯科大学市川総合病院リプロダクションセンター長
平成17年 2月 東京歯科大学市川総合病院泌尿器科教授

免許等

昭和49年 6月26日 医籍登録(第223621号)
昭和56年10月 2日 医学博士(慶應義塾大学)

■名誉教授の推薦

平成26年2月18日(火)の第622回教授会において、本学名誉教授規程に基づき、本年3月31日付で定年退職される川口 充教授、小田 豊教授、

松久保 隆教授、水口 清教授を名誉教授に推薦することが了承された。これを受け、平成26年2月21日(金)開催の第685回理事会において平成26年4月1日付の推薦が承認された。

学内ニュース

■一般入学試験Ⅰ期・大学入試センター利用試験Ⅰ期(2/2)、一般入学試験Ⅱ期・大学入試センター利用試験Ⅱ期、編入学試験B、学士等特別選抜B(3/8)

平成26年度一般入学試験(Ⅰ期)・大学入試センター利用試験(Ⅰ期)が、平成26年2月2日(日)午前9時から水道橋校舎本館及びTKP新大阪ビジネスセンター、TKP博多駅前シティセンターの3会場において実施された。Ⅰ期は、一般入学試験410名、大学入試センター利用157名、併願者132名、合計567名(実数435名)の志願者があった。一般入学試験志願者には英語、数学、理科の3科目の学力試験、小論文、面接を実施した。大学入試センター利用試験志願者は、1月18日(土)、19日(日)に実施された大学入試センター試験において本学が指定した科目を予め受験してもらい、2月2日(日)に水道橋校舎本館及び大阪会場、福岡会場において小論文、面接試験を実施した。一般(Ⅰ期)、大学入試センター利用(Ⅰ期)共に2月5日(水)夕方に本学ホームページにて合格者が発表され、合格者に合格通知が發送された。

平成26年度一般入学試験(Ⅱ期)・大学入試センター利用試験(Ⅱ期)が平成26年3月8日(土)午前9時から水道橋校舎本館において実施された。一般入学試験では189名、大学入試センター利用38名、併願者34名、合計227名(実数193名)、また、編入学試験B、学士等特別選抜Bも同時刻に水道橋校舎本館で開始され、16名の志願者があり、小論文・小テストおよび面接試験が行われた。

■第130回歯科医学教育セミナー開催

平成26年2月10日(月)午後6時より、水道橋校舎本館第2講義室において、第130回歯科医学教育セミナーが開催された。今回は、「歯学教育認証評価制度の構築－英国・米国の認証評価制度－」と題し、Mr. Patrick Kavanagh (Policy Manager, General Dental Council)とDr. Sherin Took (Director, Commission on Dental Accreditation)から説明がなされた。

現在、我が国では、歯科医学教育の質を保証し、その内容が国際標準に比較して遜色のない水準であることを証明するため、平成24年度からの5年

間の文部科学省の事業として、歯科医学教育の認証評価基準を作成しているところである。本学を含む5大学が認証評価WGの幹事校となり、現在、認証評価のトライアルを開始している。そのような状況の中で、すでに確固とした認証評価制度を構築し、運用している英国 General Dental Councilと米国 Commission on Dental Accreditationの責任者が認証評価シンポジウムで来日された機会を利用して、本セミナーが開催された。当日は100名以上の参加者を得て、英国と米国の歯科医学教育の認証評価制度についての解説があった。参加者は今後の歯科医学教育の質保証の重要性を強く感じ、また、セミナーの最後では積極的な質疑がなされ、有意義な時間を過ごすことができた。



参加者からの質問を聴くMr. Patrick Kavanagh(左)とDr. Sherin Took(右)：平成26年2月10日(月)、水道橋校舎本館第2講義室

■平成25年度水道橋病院臨床研修歯科医症例報告会開催

平成26年2月13日(木)午後7時より、水道橋校舎本館第2講義室において、平成25年度水道橋病院臨床研修歯科医症例報告会が開催された。この会は、1年間の臨床研修の総括として、臨床研修歯科医自らが治療を行った症例について学会形式で報告するものである。第11回目となる今回は、水道橋病院の臨床研修歯科医が持ち時間5分の口頭発表により症例報告を行った。

報告会は水道橋病院の教職員の他、協力型臨床研修施設の指導医の先生方にもご臨席いただき、活発な質疑応答が行われ、今後の診療に役立つアドバイスもいただいた。

なお、各発表は「発表内容の理解度」「プレゼンテーション能力」「診断および治療計画の立案」等の項目で評価され、評価を集計の上、優秀な発表者3名を研修修了式にて表彰する予定である。また、全ての発表内容を報告書として後日まとめる予定である。

研修修了を間近に控えた臨床研修歯科医にとって、この症例報告会は1年間の研修の集大成であり、その締めくくりに対応しい会となった。



発表する研修歯科医：平成26年2月13日(木)、水道橋校舎本館第2講義室

■市病フォーラム 第18回市民公開講演会開催

市川総合病院において毎年開催している市病フォーラム主催による市民公開講演会が、平成26年2月15日(土)午後2時より、市川総合病院講堂において開催された。

「認知症をめぐって～笑顔で過ごし続けるために～」と題し、次の各テーマに分け、それぞれに講演者を立て、実行委員長である森本陽子精神科部長の司会進行のもと行われた。

1. 「認知症の方と家族の仲良い暮らしを考える」
吉崎 崇仁助教（東京歯科大学市川総合病院神経内科）
2. 「認知症をこじらせない！ウチでも出来るひと工夫」
森本 陽子講師（東京歯科大学市川総合病院精神科 部長）
3. 「ウチでも出来る！認知症の方のおいしい食事～認知症の方においしく食事を召し上がって頂くために～」
枝広 あや子先生（公益社団法人東京都豊島区歯科医師会 豊島区口腔保健センター
あぜりあ歯科診療所／東京歯科大学オーラル

メディシン・口腔外科学講座 非常勤講師)

4. 「認知症の方と家族をささえる社会のしくみ」
藤井 千代准教授（埼玉県立大学 保健医療福祉学部共通教育科）

それぞれの専門分野から、市民の皆様が日頃から疑問に思っている認知症について、丁寧にわかりやすく講演が行われた。120名を超える入場者からは、大いに関心が寄せられ、質疑応答も活発に行われ、市民公開講演会は盛会のうちに終了した。



講演する森本実行委員長：平成26年2月15日(土)、市川総合病院講堂



講演会風景：平成26年2月15日(土)、市川総合病院講堂

■平成25年度第9回水道橋病院教職員研修会開催

平成26年2月24日(月)午後6時より、水道橋校舎本館第2講義室において、平成25年度第9回水道橋病教職員研修会が開催された。今回は2演題の講演があり、最初に「個人情報保護について」と題し、個人情報保護委員会委員長の高野正行准教授が講演を行った。

どのようなものが個人情報にあたるかなど基本的なところから、具体例を示しつつ個人情報保護マニュアルに記載されている内容の理解を深め

た。中でも、学生や研修医の診療参加や研修会などでの患者データの使用については、院内での掲示をもって患者からの同意を得ていることや、退職者のデータ管理についての重要性などについて、職員のコンセンサスが得られる講演であった。

続いて、「手指衛生の重要性について－平成25年度手洗い実習の結果報告と問題点－」と題し、感染予防委員会より嶋田みゆき助教が講演を行った。

まず、昨年末に行われた病院職員を対象とした手洗い実習での総括が行われた。病院全体での本実習への参加率を向上させるため、2日間に分け出席者を募った。そのため全体の約80%近い出席率を得ることができた。具体的に実習時の手指の洗い残しについて、薬指・中指・人差し指そして手首に多くみられたとの結果報告があった。また、手指衛生管理についてアルコール製剤による手指消毒の有用性やラテックスグローブを2重にして使用することで感染リスクを低減できるなど文献を引用し解説された。そして、最後に病院の全職員が感染予防に対し意識を向上させる事が、重要であると指摘し講演を締めくくった。



講演する高野准教授：平成26年2月24日（月）、水道橋校舎本館第2講義室



講演する嶋田助教：平成26年2月24日（月）、水道橋校舎本館第2講義室

■平成26年度推薦入学者等の入学前スクーリング開催

本学へ入学予定の編入学生・推薦合格者を対象とした、入学前スクーリングが平成26年2月26日（水）12時30分より、水道橋校舎本館第1講義室において開催された。

初めに、河田英司教務部長より挨拶があり、続いて各科目の確認試験が実施され、さらにそれらの科目を担当される先生方から、大学教育における教養科目としての位置付けや学習内容について解説がなされた。

最後に入学後の学習面に関する事項や大学生活に向けての心構え等について、全体説明があり、参加者、皆真剣な面持ちで説明に聞き入り、来るべき新生活に向けての意気込みが感じられた。

■平成25年度口腔科学研究センターワークショップ開催

平成25年度東京歯科大学口腔科学研究センターワークショップが、平成26年2月28日（金）午後5時より、水道橋校舎新館血脇記念ホールにおいて開催された。

まず、吉成正雄口腔科学研究センター研究機器管理部長の司会で開会し、石原和幸口腔科学研究センター所長より、口腔科学研究センター（口科研）組織の概要そして今後の展望についての講演が行われた。

次に学長奨励研究助成採択者の研究成果報告が行われ、①スタチン系薬剤の局所的投与は老人性骨粗鬆症の骨質改善に有効か？（佐々木穂高講師（口腔インプラント学））②白板症の癌化能を予測するための総合診断システムの構築－How to predict malignant risk for low-grade oral epithelial dysplasia－（野村武史准教授（口腔外科学））③骨芽細胞におけるカルシトニンファミリーのカルシウム調節機構の解析（遠藤隆行講師（生理学））の3名から報告が行われた。

引き続き、共同研究プロジェクトから現在までの研究成果報告が行われ、各課題の代表者から報告が行われた。

最後に、口科研のプロジェクトとして3つの研究部門の主任より、今後の研究計画についての発表が行われた。当日は、名誉教授、出版社の方々を含め111名が参加し、活発な論議が繰り広げられた。



ワークショップ会場風景：平成26年2月28日（金）、水道橋校舎新館血脇記念ホール

■第107回歯科医師国家試験結果

第107回歯科医師国家試験は、平成26年2月1日（土）、2日（日）の両日に実施され、3月18日（火）に合格者が発表された。今回の受験者は全国で3,197名、合格者は2,024名、合格率（全国平均）は63.3%であった。

本学からは、平成26年3月卒業の第119期生123名、既卒者5名の計128名が受験、見事121名が合格した。

昨年に続き、合格率94.5%（新卒者95.1%、既卒者80.0%）という驚異的な数字をたたき出し、全国29歯科大学、歯学部（国公私立）で3年連続トップの栄冠に輝いた。

■平成25年度第10回水道橋病院教職員研修会開催

平成26年3月24日（月）午後6時より、水道橋校舎本館第1講義室において、平成25年度第10回水道橋病院教職員研修会が開催された。今回は「平成25年度カルテ指導における総括と平成26年度診療報酬改定保険講習会」と題して水道橋病院カルテ指導委員である糠信安宏非常勤講師より、平成25年度中の水道橋病院医局員のカルテ記載についての総評、ならびに平成26年度診療報酬改定における各項目の変更点および新設項目についての解説が行われた。

水道橋病院では平成18年の特定共同指導以降、継続的に外部のカルテ指導員による医局員へのカルテ記載の指導が行われてきた。平成25年度は、大学の水道橋移転に伴い医局員の大幅な移動があり、指導員から丁寧な指導をいただいている。今回、カルテ記載において問題と思われた内容およ

び注意事項が具体例とともに示され、基本的ルールの再確認と更なる質の向上が期待された。

平成26年度の診療報酬改定について、周術期における口腔機能の管理等、医療機関相互の連携、生活の質に配慮した歯科医療の充実、患者の視点に立った歯科医療の充実、新規医療技術の保険導入等、先進医療からの保険導入などの枠組みにおける改定内容が解説された。今回の改定は、プラス改定ではあるものの消費税率引き上げに伴う対応が主であるとのことであった。

最後に診療録指導医員会から黒須 誠臨床教授と森岡俊介非常勤講師からも水道橋病院医局員へのカルテ記載に関する貴重なアドバイスをいただくことができた。今回の研修会は、保険医として歯科医療を行っていく上で大変有意義な研修会であった。



説明される糠信先生：平成26年3月24日（月）、水道橋校舎本館第1講義室

■第131回歯科医学教育セミナー開催

平成26年3月31日（月）午後6時より、水道橋校舎本館第2講義室において、第131回歯科医学教育セミナーが開催された。今回は、「学生サポート活動の実施状況報告」と題し、第1学年主任の森田雅義教授、第2学年主任の平田創一郎教授、第3学年主任の山本 仁教授、第4学年主任の阿部伸一教授より報告がなされた。

本取り組みは、昨年の教育ワークショップ報告会でも報告されたように、昨年度から実施されている学生サポートを検証し、継続して第1～4学年までの現状の学生サポート体制を発展させた形で運用していくことを目的としている。

今回は各学年主任が取り組んできた①ホームルーム、形成評価、自主学习などのための授業枠の確保「HR、補習時間の設置」②サポート組織の

再構築「1～4年における各学年のサポート委員の任命」③統合型科目の再構築「カリキュラムの変更」④自学自習の習慣化、勉強時間の絶対的な不足に対する「各学年主任・副主任・学生サポート委員による対応」等について、総合学力試験の結果も踏まえて説明があった。また、第4学年は、クラブ活動の最高学年ということで夏の歯学体での活躍についても報告された。

各学年において、何点か課題もあるが、今回発表された先生方は、来年度も継続して、同じ学年の主任を務めるとのことで、今回のノウハウを活かして関係教職員で解決をしながら、今後も引き続き取り組んでいくと説明があった。



説明する森田教授：平成26年3月31日（月）、水道橋校舎本館第2講義室

■第4学年共用試験CBT・OSCE実施

平成17年度から正式実施となった『臨床実習開始前の学生評価のための共用試験』（医療系大学間共用試験実施評価機構）が、第4学年生を対象に行われた。これは、社会からの要請に応え、信頼される医師・歯科医師を養成するために、全国の医歯学部を有する大学が参加し、診療参加型臨床実習を推進するにあたり学生が一定水準以上の知識、技能、態度を有しているか評価するものである。CBT（コンピュータによる客観試験：知識領域）が、平成26年2月20日（木）に水道橋校舎本館第1講義室で、OSCE（客観的臨床能力試験：態度・技能領域）が、2月23日（日）に水道橋校舎本館13階セミナー室、水道橋病院2階、3階の診療室等において実施された。また、CBT再試験が3月12日（水）に行われた。

CBTは、143名の学生が一斉にコンピュータ画面に向かって多肢選択式の試験に取り組んだ。今年も昨年同様、選択肢が6つ以上設けられる多選

択肢問題の2連問（L形式）順次解答型五肢択一問題の2連問、4連問（W,Q形式）、五肢択一問題（A形式）の各形式で合計320問、6時間におよぶ試験が行われた。学生は、最後にコンピュータ上でアンケートに答え、試験を終了した。

OSCEは、医療系大学間共用試験実施評価機構で策定された共通課題、評価シート、評価マニュアルに従って実施され、医療面接・説明指導系2課題、技能系4課題にレスト（休憩）を加えた8ステーション（ST）で実施された。機構から2名のモニター、他大学から6名の外部評価者、外部から8名の標準模擬患者（SP）の協力を得て、総勢200名を超えるスタッフを動員して行われた。臨床実習を間近に控えた学生たちは、真剣な面持ちで試験に臨んでいた。

■平成25年度臨床研修修了式開催

平成25年度の臨床研修修了式が、千葉病院、市川総合病院、水道橋病院の三病院でそれぞれ行われた。

千葉病院では、平成26年3月26日（水）午前9時より、千葉校舎実習講義棟歯科臨床研修医室において、平成25年度歯科医師臨床研修修了式が行われた。

式は亀山敦史研修管理副委員長の開式の辞に始まり、井上 孝千葉病院長から臨床研修歯科医に修了証が授与された。引き続き井上千葉病院長による訓示、高橋俊之研修管理委員長の挨拶が行われ、修了式は無事に閉式した。

市川総合病院では、平成26年3月25日（火）午前8時30分より、市川総合病院第2・3会議室において、医科と歯科の臨床研修医修了式が合同で行われた。式は司会の水野利彦事務部長の開式の辞により始まり、西田次郎市川総合病院長から研修修了者（医科9名、歯科7名）に修了証が授与された。引き続き西田市川総合病院長の訓辞が行われ、その後小板橋俊哉副院長（研修管理委員長）、片倉 朗歯科研修管理委員長の挨拶があり、修了式を閉式した。

水道橋病院では、平成26年3月19日（月）午前9時より、水道橋校舎本館ミーティングルームにおいて挙行された。式は司会の細川壮平研修管理委員長の開式の辞に続いて、矢島安朝水道橋病院長より研修修了者14名に修了証が授与された。引

き続き、矢島水道橋病院長より訓辞があり、「平成25年度臨床研修歯科医症例報告会」(2月13日(木)開催)の最優秀賞(池田麻乃)ならびに優秀賞2名(山田竣太郎、多田恵子)を発表し、水道橋病院ならびにノーベル・バイオケア・ジャパン株式会社からの記念品を授与し、修了式を閉式した。



訓示を述べる井上千葉病院長：平成26年3月26日(水)、千葉校舎実習講義棟歯科臨床研修医室



訓辞を述べる西田市川総合病院長(左)：平成26年3月25日(火)、市川総合病院第2・3会議室



修了式終了後に細川研修管理委員長を囲んで：平成26年3月19日（月）、水道橋校舎本館ミーティングルーム

大学院ニュース

■大学院入学試験（Ⅱ期）実施

平成26年3月1日（土）午前9時30分より、水道橋校舎本館13階において、平成26年度大学院入学試験（Ⅱ期）が実施され、外国語（英語）試験および志望講座における主科目試験・面接が行われた。また同日、社会人特別選抜の試験も行われた。今回は、志願者13名が受験し、3月7日（金）正午に合格者の発表が行われた。

■平成25年度大学院歯学研究科修了式開催

平成26年3月15日（土）午前10時より、平成25年度大学院歯学研究科修了式が、第119期卒業証書授与式と合同で行われ、本年度大学院修了生35名がアカデミックガウンと帽子を装い出席した。修了式では、修了生代表として中島 啓大学院生（臨床検査病理学）に田崎雅和大学院研究科長から修了証が授与された。式終了後、水道橋校



平成25年度大学院歯学研究科修了式終了後の記念写真：平成26年3月15日（土）、水道橋校舎新館第2講義室前ロビー

舎新館第2講義室で全員に修了証が授与された。そして昨年度より設けられた大学院同窓会長賞の表彰が行われ、中島 啓（臨床検査病理学）、渡部幸央（口腔外科学）の2名に矢崎秀昭同窓会会長より同窓会長賞が授与された。

■平成25年度大学院学生会主催大学院修了者懇親会開催

平成26年3月14日（金）午後2時より、大学院学生会主催大学院修了者懇親会が、東京ドームホテル「アリエスの間」で行われた。本懇親会は、井出吉信学長、田崎雅和大学院研究科長をはじめとした多くの大学院の指導教授も出席し、盛会のうちに終了した。



平成25年度大学院修了者懇親会での記念写真：平成26年3月14日（金）、東京ドームホテル「アリエスの間」

トピックス

■山田将博講師 The Academy of Osseo-integration第29回学術大会でThe Best Oral Scientific Presentation Awardを受賞

平成26年3月6日から8日までの3日間、Academy of Osseointegration (AO) 第29回学術大会がアメリカ・シアトルにて開催され、有床義歯補綴学講座の山田将博講師がOral Scientific Research Presentationsのカテゴリで、The Best Oral Scientific Presentation Awardを受賞した。山田講師は2009年に同賞を受賞し、今回2度目の受賞となった。AOは毎回世界各地から2000人以上が参加する世界最大規模の学会である。今回の学術大会では、59名の招待演者による講演、36題の口演発表および225題のポスター発表が行われ、CAD/CAMシステムを用いた補綴装置の製作や歯槽骨造成術などに関する最先端の臨床報告、インプラント補綴関連の臨床研究報告、インプラント表面性状や骨再生に関する基礎研究報告がなされた。本賞は事前の抄録審査により、ファイナリストを8名選出し、15分間の口演および5分間の質疑応答による公開審査を行い、最優秀者に授与されるものである。

受賞演題名は「Cytofunctional preconditioning for auto-cell transplantation to enhance bone regeneration using antioxidant amino acid derivative」であり、山田講師の主たる研究課題の一つであり、平成25年度学長奨励研究助成に採択されたテーマである、抗酸化アミノ酸誘導体の骨再生における多機能性の一つを示す研究内容である。

骨欠損部への自家細胞移植は、骨造成アプローチの一つとして、近い将来、革新的な手法となる可能性が示唆されている。本研究は自家骨芽細胞移植時の細胞調整剤としての、抗酸化アミノ酸誘導体の有効性を示した基礎的研究である。抗酸化アミノ酸誘導体を用いて移植骨芽細胞を調整することで、移植細胞の分化能や抗炎症性の向上が細胞培養試験により示された。さらに、ラット大腿骨皮質骨広域区域切除モデルにおいて、未調整の細胞を移植した骨欠損に比べて、抗酸化アミノ酸誘導体で調整した細胞を移植した骨欠損では骨再生の著しい促進が示された。本研究は、学術的に

斬新なアプローチで、治療効果を向上させる可能性をもつ自家細胞移植の細胞調整方法を提示するものであり、その科学性の高い背景と得られた結果のインパクトおよびプレゼンテーションの質が評価され受賞に至ったことが伺えた。本研究の裏付けとなる細胞内シグナル伝達経路の解明が今後期待される。



座長のDr. Wendy C Halpern (左)、受賞した山田講師 (中央) とAO会長のDr. Stephen L. Wheeler (右) : 平成26年3月8日、アメリカ・ワシントン州国際会議場での授賞式にて

■水口 清教授、花岡洋一准教授 千葉県警察から感謝状を贈呈される

法歯学講座の水口 清教授と花岡洋一准教授の長年にわたる警察活動に対し、平成25年3月25日(火)付で水口教授が千葉県警察本部長、花岡准教授が同刑事部長より、それぞれ感謝状が贈られた。



花岡准教授 (左)、水口教授 (中央)、小駒千葉県警科学捜査研究所所長 (右)

■川口 充教授 日本薬理学会名誉会員に推戴される

川口 充教授(薬理学講座主任)が、日本薬理学会名誉会員に推戴され、東北大学(仙台)で開催された第87回日本薬理学会年会において名誉会員称号記の授与式が平成26年3月20日(木)に行われた。日本薬理学会は、医学、歯学、薬学、獣医学、研究所の会員、総勢約6,000人で構成され、学会活動・運営に長年貢献した会員に、本称号を毎年授与している。平成25年度は7名が対象者に選ばれ、歯学からは対象者が1名であった。



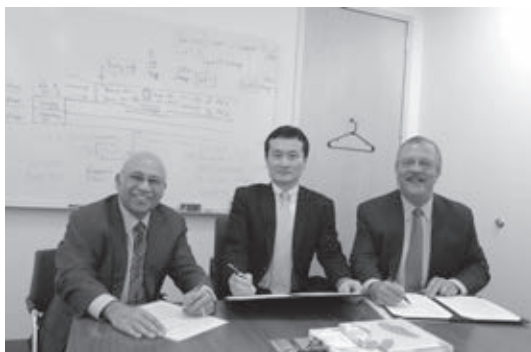
川口教授に授与された日本薬理学会名誉会員称号記

国際交流部レポート

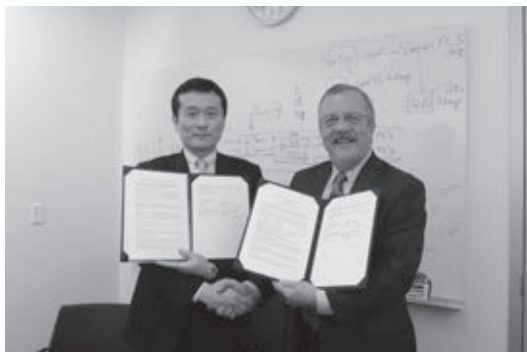
■アメリカ・タフツ大学 (Tufts University) と姉妹校協定締結

平成26年3月4日(火) Tufts University と本学との姉妹校協定締結が正式に結ばれた。本学からは阿部伸一国際交流部長が金子 譲理事長、井出吉信学長の代理として調印式に出席した。調印式後、両校の今後の交流について会議が行われ、平成26年8月25日から27日に第4学年から第6学年対

象の Elective Study の研修が Tufts University で開催されることが決定し、研修中の講義内容、臨床の見学内容についての概略が話し合われた。Tufts University の歯科病院は数年前に新築され、臨床教育を第一に考えた最新の機器を揃えており、本学学生は世界最高峰の環境で研修を行うことになる。



姉妹校協定書にサインをするHuw F. Thomas歯学部長(右)とNoshir R. Mehta副歯学部長(左)：平成26年3月4日(火)、アメリカ・マサチューセッツ州、タフツ大学



両校に一部ずつ保管される姉妹校協定書、Huw F. Thomas歯学部長(右)と代理出席した阿部国際交流部長(左)：平成26年3月4日(火)、アメリカ・マサチューセッツ州、タフツ大学

■チェンマイ大学歯学部学生来校

平成26年3月26日(水)から28日(金)に、タイ王国チェンマイ大学歯学部の学生3名(第5学年)がElective Studyで本学を訪問した。第5学年ということもあり、研修は病院見学を中心に行われたが、参加学生達は様々なことに興味をもって見学し、不明な点は積極的に質問していた。最近では途絶えていたチェンマイ大学との交流であったが、今回をきっかけに活発になることが期待される。



チェンマイ大学歯学部の学生3名(左側)との記念写真(中央右側:井出吉信学長、村松 敬教授、橋本正次教授)、平成26年3月28日(金)、水道橋校舎本館

学生会ニュース

■第119期卒業生謝恩会開催

第119期卒業生謝恩会は、平成26年3月15日(土)午後6時より、東京ドームホテル「天空」において開催された。

総合司会の砂川 晋君と古澤春佳さんの開会の辞により幕を開けた本会は、野末雅子謝恩会実行委員の挨拶、金子 譲理事長、井出吉信学長、矢崎秀昭同窓会会長の祝辞、寺本信三父兄会会長の

謝辞、乾杯の発声で声高らかに杯を上げ、歓談に入った。歓談途中で井出学長より各賞受賞者が発表され、デンツプライ賞は大津雄人君、橋口あやさんに、パナソニック賞は星野立樹君に手渡された。

続いて、在学中に第119期生の修学指導を担当した学年主任並びに副主任の先生方に感謝の花束贈呈が代表学生より行われ、それに応えて、歴代の学年主任を務めた中村弘明先生、澤田 隆先生、



謝恩会終了後119期生全員で記念撮影:平成26年3月15日(土)、東京ドームホテル「天空」

東 俊文先生、柴原孝彦先生からそれぞれ卒業生に向け思い出話や心温まる御礼の言葉が贈られた。

会の後半には、第119期同窓会会長よりクラス会の名称が「千鼎（せんてい）会」と発表された。「このクラス会名は、千葉の千と、器を支える足ないし、器そのものを指す鼎を接合させたものです。千葉校舎最後の卒業生ということで「千」。鼎とは三本の足で支えられるもので、器に乗るべく我々の未来を支えるのは「歯科医師たる前に人間たれ」「数多くの友人」「医療人としての知識」ではないかということで「鼎」となったことが発表された。



司会・進行を務める砂川 晋君（右）と古澤春佳さん（左）：平成26年3月15日（土）、東京ドームホテル「天空」

楽しい時は瞬く間に過ぎさり、毎年の恒例となった学年主任・副主任と卒業生全員が登壇し、参加者全員で校歌を斉唱した。最後は謝恩会委員長の林 卓弥君が閉会の辞に挨拶をして午後8時30分に閉会となった。



感謝の意を述べる林 卓弥謝恩会実行委員長：平成26年3月15日（土）、東京ドームホテル「天空」

■第119期卒業生から大学に卒業記念品贈呈

第119期生からの卒業記念品として、新水道橋校舎竣工時の備品費用として金50万円が大学に寄贈された。平成26年3月15日（土）、第119回卒業証書授与式終了後に行われた記念品贈呈式において、卒業生代表の林 卓弥君から井出吉信学長に目録が手渡された。

図書館から

■本学出版物寄贈依頼について

図書館では本学発行出版物の収集、保存に努めております。講座、研究室、各課発行の教科書、記念誌、業績集、および学内資料等の出版物は是非とも図書館へご寄贈くださいますよう、よろしくお願いたします。

本学教員の著書についても、特に収集に努めております。著書発刊のおりには、図書館へ、ご報告くださいますようよろしくお願いたします。

■「学認」のサービス追加について

「学外からの電子ジャーナルアクセス：学認」にて、これまでに提供していたサービスに加え「Wiley Online Library」「Nature」「OvidSP」の3種が追加された。既にユーザー登録をされた方は

これまで通りの利用が可能。利用希望の方は利用にはユーザー登録が必要なため、下記URLを確認の後、登録申請をしていただきたい。

<http://www.tdc.ac.jp/lib/gakunin.php>

■「医中誌Web・PubMedを使いこなすための医学文献検索講習会」を開催

平成26年2月から3月にかけて、医学文献検索講習会を本館図書館グループ学習室にて開催した。期間中3回開催され、全日程で12名の参加があった。医学文献の検索に役立つデータベース「医中誌Web」「PubMed」について、それぞれ基礎編・応用編を設け、1コマ30分程度で解説・演習を行った。基礎編では、基本的な検索方法と文献入手法について、応用編ではタグや履歴を利用した検

索、また研究デザインで絞り込む検索などの演習を行った。文献検索初心者からは基礎編、ある程度使いこなせる方からは基礎編に加え応用編の受講希望があり、講義中も質問が飛び交い受講者の積極性が見られる講習会となった。アンケートでは、ほとんどの方が今回の講習会の内容について、今後文献検索を行う上で「大変役に立つ」または「役に立つ」と回答しており、好評を得た結果となった。



医学文献検索講習会の風景：水道橋校舎本館図書館グループ学習室

歯科衛生士専門学校ニュース

■第63回歯科衛生士専門学校卒業証書授与式挙行

第63回東京歯科大学歯科衛生士専門学校卒業証書授与式は、平成26年3月7日(金)午後1時より、千葉校舎講堂において厳粛な雰囲気の中で挙行された。

式は杉山哲也教務部長が司会を務め、開式の辞に始まり、国歌斉唱、松坂賢一副校長による学事報告の後、第63期卒業生の41名全員に対し、井上 孝校長から卒業証書が授与された。続く褒賞授与では、成績がもっとも優秀であった遠山美亜さんに学校長賞が、岩立恵理子さんを代表として5名に優等賞が授与された。さらに、3年間無遅刻・無欠席でよく勉学に励んだことを讃え、皆勤賞が荻野あずささんを代表として11名に、また精勤賞が川口明日美さんを代表として13名に授与された。また、学外からの褒章として、千葉県知事賞が遠山美亜さんに、公益社団法人日本歯科衛生士会学生会員会長表彰が岩立恵理子さんに授与された。

井上校長の告辞に続き、来賓としてご臨席頂いた金子 譲東京歯科大学理事長、井出吉信東京歯科大学学長、市川明美東京歯科大学歯科衛生士専門学校同窓会会長からご祝辞を頂いた。在校生代表の2年生、西元柚奈さんから送辞を受けた後、卒業生の代表として遠山美亜さんが3年間の思いを込めて答辞を述べた。「歯科衛生士専門学校校歌」と「蛍の光」を厳かに斉唱し、第63回東京歯科大学歯科衛生士専門学校卒業証書授与式は終わり、卒業生たちは歯科界へと巣立っていった。

引き続き行われた記念品贈呈式では、市川同窓会会長から代表の吹上奈津子さんに袱紗が手渡された。また、在校生の安岡有里奈さんから印鑑付きボールペンと花が卒業生の難波由貴さんに贈られ、卒業生を代表して、池田千鶴さんから後輩たちのために掃除機2台が学校へ贈呈された。

最後に、3年間一緒に学んだ仲間と共に、恩師



井上校長(左)より卒業証書を授与される卒業生：平成26年3月7日(金)、千葉校舎講堂



答辞を述べる卒業生：平成26年3月7日(金)、千葉校舎講堂

を交えて卒業記念の集合写真撮影が行われ第63期卒業式のすべての行事が終了した。



笑顔で巣立つ卒業生：平成26年3月7日（金）、千葉校舎講堂



恩師と共に卒業記念の集合写真：平成26年3月7日（金）、千葉校舎講堂

学事報告

東京歯科大学歯科衛生士専門学校
副校長 松坂 賢一

現在、本校に在籍する学生の数は、134名で、これに対し教授の任にあたる教員の数は、125名であります。

本日、第63回卒業証書授与式において卒業証書を授与される者は、41名であります。これを本校創立以来の卒業生に合わせますと、総数2,324名となります。

平成26年3月7日

告 辞

東京歯科大学歯科衛生士専門学校
校長 井上 孝

第63期41名の皆さまご卒業おめでとうございます。皆さんは、私が校長に就任しまして、初めて送り出す41名です。喜びも一入に感じております。

初めて皆さんの前で話をしたときに、私が言った言葉は「皆さんはまず自分を尊敬しなさい。まだ未熟な自分だから、自分を尊敬すれば悪いこともしない、勉強もしなければいけない、そして尊敬される歯科衛生士になるだろう」というような話をしたと思います。

本日、立派な姿で尊敬される歯科衛生士としてこれから世の中に出ていく時です。本当におめでとうございます。これから皆さん散り散りになって、それぞれの職種に就いていくことだと思います。自分が決めた場所を、まず頭の中で思い浮かべてみてください。いろいろな人がいる中、歯科医師がいる中、その中に自分がある姿を思っただけだと思います。

そんな中で、校長として3つの事をお話したいと思います。すべてこれはKが付く、ある意味で「3つのK」というふうに考えていただいてもよろしいかと思います。まず1つは「経験」ということです。皆さんは今、スタートラインに立ったばかりです。これから多くの事を経験していかなければなりません。そして最終目標は自分の意思が決定するということです。その意思を作り上げる為にも様々な経験をして、逃げることなく、全てを自分の物にしていくということです。2つ目は「勤勉」です。今まで3年生で国家試験を受ける為に毎日夜遅くまで勉強してきて、全員合格すると信じております。しかし、これで勉強が終わったわけではありません。これからも勉強を続けていかななくてははいけません。歯科に関係する勉強はもちろんのことながら、今たとえば社会情勢でロシアがクリミア半島に侵攻している。なぜでしょう。また、タイでは暴動が起きている。これはなぜでしょう。アベノミクスというのはどういうものなのだろう。そういったような事を専門にしている患者さんもいらっしゃるわけです。そういったような時に、歯周病の話だけをしても、これは人間として私は十分ではないと思っています。お互いの専門を理解してこそ信頼関係が構築されるのです。だから、常に勉強をし、勤勉であって欲しいと思います。そして3つ目のKはもちろん「心」です。この心というのは、今東京オリンピックが誘致され、「おもてなし」、「思いやり」ということが言われています。この言葉の裏には、千利休の秘事があります。例えば花は野にあるように、そして炭は湯が沸く程度、また寒い時には暖かく、暑い時には涼しく、そして雨が降らなくても傘の用意、また時間には遅れず早めに行くといったような事。こういったような事が全て、「心」として患者さんへの「おもてなし」になるのであろうと信じています。今申しました3つのKの事を実践していただく為には、これから社会に出て行って、「2人の人間」になっていただきたいと思います。1人は良く作られた自分です。そしてもう1つは他人になる自分です。自分が自分を診療した時に、こういう事をやられたら嫌だろうということは身に沁みるはずですが。そういう意味で2人の人間になって、これから社会で頑張ってもらいたいというふうに思っています。

最後にここまでお育ていただいたご両親、またご父兄の方々には常に感謝の念をもって接していただきたいと思います。また、くれぐれも健康には留意して、この41人がいつも仲良く一緒に居られるということを目指していただきたいと思います。ご卒業おめでとうございます。

■第23回歯科衛生士国家試験結果

平成26年3月2日(日)第23回歯科衛生士国家試験が全国の試験会場で一斉に実施された。

本校の卒業予定者41名全員が、東京試験会場の早稲田大学で受験した。試験は4肢択一および4肢択二のマークシート方式で行われ、午前110問(3時間)、午後110問(3時間)の計220問が出題され、午後4時に終了した。結果は3月27日(木)午後2時に厚生労働省ならびに歯科医療研修振興財団にて発表され、本校の受験者41名は全員合格した。全国の受験者総数6,685名のうち合格者は6,492名で、合格率は97.1%であった。なお、新卒の合格率は98.2%、既卒の合格率は58.5%であった。



国家試験当日の集合写真：平成26年3月2日(日)、早稲田大学

平成26年度学年暦

年 月 日	曜	行 事 予 定		
平成26年 4月	1日	火 新入生・編入生オリエンテーション		
	2日	水 新入生フレッシュマンセミナー		
	3日	木 2・3・4年生オリエンテーション		
	4日	金 2・3・4年生前期授業開始		
	5日	土 入学式(2～4年休講日)		
	7日	月 新入生プレースメントテスト・健康診断 5年生オリエンテーション・授業開始		
	8日	火 1年生前期授業開始		
	16日	水 5年生登院式・登院器材刻印・検査		
	30日	水 } 1～4年休講日(4/29～5/6連休)		
	5月	2日	金 }	
7日		水 } 新入生物学外セミナー		
9日		金 }		
6月	9日	金 2～4年生振替授業(火曜日分)		
	4日	水 解剖慰霊祭(3年生)		
	5日	木 6年生第1回総合学力試験(6日(金)まで)		
7月	13日	金 実験動物供養祭(3年生)		
	18日	金 1・2・3・4年生前期授業終了		
	22日	火 1～4年生夏期休暇 開始(9月12日(金)まで)		
	22日	火 6年生第2回総合学力試験(2日(火)まで)		
9月	1日	月 1～4年生全体集合日		
	3日	水 1～4年生前期定期試験準備期間(12日(金)まで)		
	6日	土 5年生第1回総合学力試験		
	17日	水 1・2・3・4年生前期定期試験(29日(月)まで)		
	10月 1日	水 1・2・3・4年生後期授業開始		
	16日	木 振替授業(月曜日分)		
10月	22日	水 振替授業(金曜日分)		
	24日	金 } 第46回東歯祭(準備・後片付けを含む)		
	27日	月 }		
	29日	水 振替授業(月曜日分)		
	29日	水 6年生第3回総合学力試験(30日(木)まで)		
11月	8日	土 推薦入学選考、帰国子女・留学生特別選抜、編入学A、学士等特別選抜A(予定)		
	27日	木 振替授業(月曜日分)		
12月	18日	木 } 1・2・3・4年生前期追・再試験		
	24日	水 }		
	25日	木 1～4年生冬期休暇 開始(1月7日(水)まで)		
平成27年 1月	6日	火 6年生第4回総合学力試験(7日(水)まで)		
	8日	木 1・2・3・4年生授業再開		
	13日	火 振替授業(月曜日分)		
	17日	土 大学入試センター試験(18日(日)まで)		
	29日	木 1・2・3・4年生後期授業終了		
	2月	2日	月 一般入学試験(I期)、センター利用入試(I期)(予定)	
		5日	木 1・2・3・4年生後期定期試験(13日(金)まで)	
	2月	12日	木 本学創立記念日	
		16日	月 4年生総合学力試験	
		17日	火 3年生総合学力試験	
		18日	水 2年生総合学力試験	
		19日	木 4年生共用試験(CBT)	
		20日	金 1年生総合学力試験	
		21日	土 5年生第2回総合学力試験	
		28日	土 4年生共用試験(OSCE)テストラン(教職員のみ)	
		3月	1日	日 4年生共用試験(OSCE)
			3日	火 } 1・2・3・4年生後期追・再試験
			6日	金 }
			9日	月 3・4年生総合学力追・再試験
10日	火 5年生総合学力追・再試験			
11日	水 4年生共用試験(CBT)追・再試験			
12日	木 1・2年生総合学力追・再試験			
14日	土 一般入学試験(II期)、センター利用入試(II期)、編入学B、学士等特別選抜B(予定)			
15日	日 第120回卒業式(予定)			

平成26年度 第1学年・第2学年時間割表

		さいかち坂校舎									
		第1学年									
		月	火		水		木		金		
前期	8:50 ~ 10:10	α 一般数学Ⅰ	β 医療法学	歯科医学概論	コミュニケーション学Ⅰ	基礎生物Ⅰ	一般生物Ⅰ	A実用日本語Ⅱ	B実用日本語Ⅰ	人間科学	基礎化学Ⅰ
	10:25 ~ 11:45	α 医療法学	β 基礎数学Ⅰ	文化人類・社会福祉	コミュニケーション学Ⅰ	ア自然科学演習(生物)	イ自然科学演習(化学・物理)	基礎物理Ⅰ	一般物理Ⅰ	ア一般化学Ⅰ	イ人間科学
	12:55 ~ 14:15	a 英語Ⅰ	b 哲学	A独語Ⅰ	B英語Ⅱ	ア自然科学演習(化学・物理)	イ自然科学演習(生物)	A独語Ⅰ	B経済学	体育	
	14:30 ~ 15:50	a 哲学	b 英語Ⅰ	A実用日本語Ⅰ	B独語Ⅰ	A英語Ⅱ	B実用日本語Ⅱ	A経済学	B独語Ⅰ		
	16:05 ~ 17:25	補習	ホームルーム	情報科学		教養セミナー		補習	補習		

		さいかち坂校舎									
		第2学年									
		月	火		水		木		金		
前期	8:50 ~ 10:10	細胞分子生物	A科学英語	B実習自然科学Ⅱ	生理学	口腔解剖学	発生生物学				
	10:25 ~ 11:45	細胞分子生物	A医療統計	B実習自然科学Ⅱ	生理学	口腔解剖学	生体科学				
	12:55 ~ 14:15	歯科物理学	A実習自然科学Ⅱ	B医療統計	口腔生理学	口腔解剖学講義・実習	A歯科医学英語	B科学英語			
	14:30 ~ 15:50	組織学	B実習自然科学Ⅱ	B口腔生理学	口腔生理学	口腔生理学講義・実習	コミュニケーション学Ⅱ				
	16:05 ~ 17:25	補習	ホームルーム	補習	補習	補習(解剖)					

		さいかち坂校舎									
		第1学年									
		月	火		水		木		金		
後期	8:50 ~ 10:10	α 一般数学Ⅰ	β 統計学入門	A英語Ⅱ	B実習自然科学Ⅰ	教養セミナー	ア生命倫理	イ自然科学演習	ア一般化学Ⅱ	イ人間科学	
	10:25 ~ 11:45	α 統計学入門	β 基礎数学Ⅰ	A美術	B実習自然科学Ⅰ	基礎物理Ⅱ	一般物理Ⅱ	ア自然科学演習	イ生命倫理	ア人間科学	
	12:55 ~ 14:15	a 人類学	b 英語Ⅰ	A実習自然科学Ⅰ	B美術	生物学Ⅱ		独語Ⅱ	中国語	韓国語	体育
	14:30 ~ 15:50	a 英語Ⅰ	b 人類学	A実習自然科学Ⅰ	B英語Ⅱ	生物学Ⅱ		独語Ⅱ	中国語	韓国語	体育
	16:05 ~ 17:25	補習	ホームルーム	補習		人間生物学	補習	補習			

		さいかち坂校舎									
		第2学年									
		月	火		水		木		金		
後期	8:50 ~ 10:10	生理学	微生物学	解剖学	歯科理工学	発生病態学					
	10:25 ~ 11:45	生理学	微生物学	解剖学	歯科理工学	英語Ⅲ(歯科医学英語講義)					
	12:55 ~ 14:15	口腔生理学	生化学	解剖学講義・実習	口腔組織学	歯科薬理学					
	14:30 ~ 15:50	口腔生理学	生化学	解剖学講義・実習	口腔組織学	薬理学					
	16:05 ~ 17:25	補習	ホームルーム	補習	補習(解剖)	補習					

平成 26 年度 第 3 学年・第 4 学年時間割表

		水道橋校舎新館					水道橋校舎新館				
		第 3 学年					第 4 学年				
		月	火	水	木	金	月	火	水	木	金
前期	9:00 ~ 10:25	口腔微生物学	法歯学	A 微生物学講義・実習 B 解剖学講義・実習	歯内療法学	口腔病理学Ⅰ	矯正有床 小児歯合同実習(コミュニケーションⅣ)	臨床検査学	有床義歯補綴学	口腔外科学	矯正有床 小児歯合同実習(コミュニケーションⅣ)
	10:35 ~ 12:00	薬理学	病理学		生化学		口腔外科学	有床義歯補綴学講義・実習	口腔外科学	小児歯科学講義・実習	
	13:00 ~ 14:25	衛生学	病理学	解剖学	歯理工学	薬理学講義・実習 生化学講義・実習	クラウンブリッジ補綴学		歯周療法学	小児歯科学	
	14:35 ~ 16:00	保存修復学	病理学講義・実習	A 解剖学講義・実習 B 微生物学講義・実習	歯理工学講義・実習		歯科矯正学	口腔衛生学講義・実習	オーラル メディアシン	歯科放射線学	
	16:10 ~ 17:30	保存修復学 補習 ホームルーム					歯科麻酔学		口腔衛生学	隣接医学	歯科放射線学 補習 ホームルーム
後期	9:00 ~ 10:25	保存修復学	歯科矯正学	有床義歯補綴学	歯科補綴学総論	小児歯科学	(社会保障制度、医療倫理・ 医療安全)	クラウンブリッジ補綴学	社会歯科学	歯周療法学講義・実習	口腔インプラント学 講義・実習
	10:35 ~ 12:00	保存修復学講義・実習	口腔病理学Ⅱ	有床義歯補綴学講義・実習	衛生学・ 口腔衛生学	歯内療法学	クラウンブリッジ補綴学講義・実習	口腔外科学	歯科麻酔学 歯科放射線学講義・実習	歯周療法学	課題講義
	13:00 ~ 14:25		口腔病理学Ⅱ		衛生学・ 口腔衛生学	歯内療法学講義・実習		歯科麻酔学			
	14:35 ~ 16:00	口腔病理学講義・実習	衛生学講義・実習	隣接医学	歯科放射線学						
	16:10 ~ 17:30	保存修復学 講義・実習	ホームルーム 補習			内科 補習 ホームルーム				課題講義 補習 ホームルーム	

人物往来

■国内見学者来校

水道橋校舎・水道橋病院

- 太陽歯科衛生士専門学校(学生29名、教員2名)
平成26年2月3日(月)解剖実習室、水道橋病院見学
- 長野県公衆衛生専門学校(学生12名、教員2名)
平成26年2月19日(水)解剖標本室、水道橋病院見学
- 埼玉県立大学(学生32名、教員1名)
平成26年2月21日(金)解剖実習室、解剖標本室見学、水道橋病院見学
- 東京歯科大学第87期 黎明会(第87期生30名)
平成26年2月22日(土)水道橋校舎新館見学
- 静岡県立大学短期大学部(学生47名、教員2名)
平成26年2月27日(木)解剖実習室、解剖標本室、水道橋病院見学
- 学校法人葵会学園 千葉・柏リハビリテーション学院(学生87名、教員4名)
平成26年3月6日(木)、7日(金)解剖実習室、解剖標本室見学
- 東京歯科大学百期会(第百期生50名)
平成26年3月21日(金)水道橋校舎新館見学

市川総合病院

- 学校法人佐伯学園 佐伯栄養専門学校(学生12名、教員1名)
平成26年3月1日(土)、15日(土)市川総合病院 臨床検査科病理室及び厨房見学

■海外出張

- 井上 孝教授(臨床検査病理学)
Kyung Hee UniversityにてThe 2nd international Symposium, "Molecular and Therapeutic approach for tooth and periodontal disease"において特別講演のため、2月12日(水)から13日(木)まで韓国・ソウルへ出張。
- 佐藤 亨教授(クラウンブリッジ補綴学)
International Federation of Esthetic Dentistry(国際歯科審美学会)理事会および総会への参加とAmerican Academy of Fixed Prosthodontics 63rd Annual Scientific Sessionへの参加のため、2月20日(木)から24日(月)までアメリカ・シカゴへ出張。
- 阿部伸一教授(国際交流部)
タフツ大学との姉妹校規定締結式に出席、ボストン大学、タフツ大学とのElective Studyならびに今後の交流についての打合せ、コロンビア大学とのElective Studyの打合せのため、3月3日(月)から7日(金)までアメリカ・ボストン、ニューヨークへ出張。
- 平木圭佑大学院生、小川 真大学院生(社会歯科学)、井口達也大学院生(口腔外科学)
The Dysphagia Research Society 22nd Annual Meetingに参加するため3月4日(火)から10日(月)ま

でアメリカ・ナッシュビルへ出張。

- 大平真理子大学院生(クラウンブリッジ補綴学)
The Dysphagia Research Society 22nd Annual Meetingへの参加およびポスター発表のため3月4日(火)から10日(月)までアメリカ・ナッシュビルへ出張。
- 小橋優子講師(市病・放射線科)
European Congress of Radiologyに参加するため、3月5日(水)から10日(月)までオーストリア・ウィーンへ出張。
- 馬場 亮助教(市病・放射線科)
European Congress of Radiologyに参加および発表するため3月5日(水)から11日(火)までオーストリア・ウィーンへ出張。
- 山田将博講師(有床義歯補綴学)
2014 Annual Meeting of the Academy of Osseointegrationに参加および発表するため3月5日(水)から10日(月)までアメリカ・シアトルへ出張。
- 石田 瞭准教授(摂食・嚥下リハビリテーション・地域歯科診療支援科)
The Dysphagia Research Society 22nd Annual Meetingへの参加およびポスター発表のため3月6日(木)から9日(日)までアメリカ・ナッシュビルへ出張。
- 野村武史准教授(口腔外科学)
2014年台湾口腔顔面外科学会年次総会学術大会に参加するため3月7日(金)から9日(日)まで台湾・台南市へ出張。
- 山本信治講師(口腔外科学)
2014年台湾口腔顔面外科学会年次総会学術大会に参加するため3月7日(金)から10日(月)まで台湾・台南市へ出張。
- 太田亮輔レジデント(口腔外科学)
2014年台湾口腔顔面外科学会年次総会学術大会に参加するため3月7日(金)から10日(月)まで台湾・台南市へ出張。
- 茂木悦子准教授(歯科矯正学)
The 15th John Mew Orthotropic Symposium (International Association of Facial Growth Guidance)における講演のため3月12日(水)から17日(月)までカナダ・カルガリーへ出張。
- 齋藤 淳教授(歯周病学)
19th Annual Scientific Meeting & General Assembly of Taipei Dental Associationにおける講演のため3月21日(金)から23日(日)まで台湾・台北市へ出張。
- 眞木吉信教授(社会歯科学)
国際医療研究会 部活動「第14回海外スタディツアー(ミャンマー歯科保健医療スタディツアー)」の事業責任者として学生の引率のため3月27日(木)から4月2日(火)までミャンマー・ヤンゴンへ出張。

大学日誌

平成26年2月

- | | | | |
|--------|--|--------|--|
| 1 (土) | 第107回歯科医師国家試験[～2日]
防火・防災安全自主点検日 | 18 (火) | 講座主任教授会
人事委員会
歯科衛生士専門学校教員会
購買委員会(市病)
褥瘡対策委員会(水病) |
| 2 (日) | 一般入学試験(Ⅰ期)・大学入試センター
利用試験(Ⅰ期)[於:東京・大阪・福岡会場] | 19 (水) | 2年生総合学力試験
大学院運営委員会
大学院研究科委員会
5年生試験結果発表
情報システム管理委員会
褥瘡対策委員会(市病)
感染予防対策合同カンファレンス
(市病)
救急委員会(市病)
CPC(市病)
リスクマネージメント部会(水病)
薬事委員会(水病)
医薬品安全管理委員会(水病)
医療機器安全管理委員会(水病) |
| 3 (月) | 総合講義検討委員会
歯科衛生士専門学校1・2年生後期試験[～
17日]
臨床研修管理小部会(千病) | 20 (木) | 4年生共用試験(CBT)
機器等安全自主点検日
部長会(市病)
診療録指導委員会(水病)
医療安全管理委員会(水病)
感染予防対策委員会(水病)
個人情報保護委員会(水病)
科長会(水病) |
| 5 (水) | 一般(Ⅰ期)・大学入試センター利用試
験(Ⅰ期)合格通知日
講座主任教授会(臨時)
リスクマネージメント部会(千病)
ICT会議(千病)
医療安全講演会(市病) | 21 (金) | 1年生総合学力試験
大学院入学試験(Ⅱ期)願書受付締切
理事会 |
| 6 (木) | 1～4年生後期定期試験[～14日]
カルテ指導委員会(千病)
ICC・ICT委員会(市病)
治験審査・倫理審査委員会(市病)
医療用ガス設備点検(水病) | 22 (土) | 4年生共用試験(OSCE)テストラン |
| 7 (金) | 第2回予算委員会 | 23 (日) | 4年生共用試験(OSCE) |
| 10 (月) | 臨床教育委員会
第130回歯科医学教育セミナー
千葉病院部・科長会(千病)
個人情報保護委員会(千病)
医療安全管理委員会(千病)
感染予防対策委員会(ICC)(千病)
医療ガス安全管理委員会(千病)
医局長会(千病)
ICLS講習会(市病)
医療安全管理委員会(市病)
医療安全講演会(市病)
給食委員会(水病) | 24 (月) | 教務部(課)事務連絡会
公認会計士中間監査[～26日](市病)
NSTカンファレンス(勉強会)(市病)
教職員研修会(水病) |
| 12 (水) | 医療用ガス設備点検(水病) | 25 (火) | 倫理委員会・利益相反委員会
1～4年生試験結果発表
国際交流部運営委員会
データ管理者会議(千病)
カルテ整備委員会(千病)
診療記録管理委員会(千病)
診療記録・情報システム管理委員会(市病) |
| 13 (木) | 業務連絡会(千病)
高度・先進医療委員会(千病)
午後のリサイクル(市病)
手術室運営委員会(市病)
臨床研修歯科症例報告会(水病) | 26 (水) | 平成26年度推薦入学者等の入学前スクー
リング
糖尿病教室(市病)
災害対策委員会(市病)
データ管理者会議(水病)
病院連絡協議会(水病)
診療録管理委員会(水病) |
| 14 (金) | 衛生委員会
血液製剤使用適正化個別説明会(市病)
感染予防対策チーム委員会(水病) | 27 (木) | 1～4年生後期追・再試験[～3/4]
管理診療委員会(市病) |
| 15 (土) | 5年生第2回総合学力試験
環境清掃日
危険物・危険薬品廃棄処理日
研修管理委員会(千病)
患者サロン(市病)
市病フォーラム第18回市民講演会(市病) | 28 (金) | 口腔科学研究センターワークショップ |
| 17 (月) | 4年生総合学力試験
千葉病院研修会(千病)
医療連携委員会(千病) | | |
| 18 (火) | 3年生総合学力試験
臨床教授連絡会 | | |

28 (金)	医療サービスに関する検討会(千病)	13 (木)	4年生共用試験(OSCE)追・再試験 業務連絡会(千病) 高度・先進医療委員会(千病)
平成26年3月			
1 (土)	大学院入学試験(Ⅱ期) 防火・防災安全自主点検日	14 (金)	第119回卒業証書授与式予行演習 ICLS講習会(市病) 感染予防対策チーム委員会(水病)
3 (月)	1～4年生後期追・再試験[～4日] 公認会計士中間監査[～5日] 臨床研修管理小部会(千病) 薬事委員会(市病)	15 (土)	5年生学年主任主催プログラム(引越 期間)[～23日] 第119回卒業証書授与式 大学院修了式 環境清掃日 危険物・危険薬品廃棄処理日 患者サロン(市病)
4 (火)	一般(Ⅱ期)・センター(Ⅱ期)・編入学 B・学士等選抜B願書受付締切 歯科衛生士専門学校臨床実習委員会 感染対策勉強会(市病)	17 (月)	歯科医師臨床研修修了式 千葉病院研修会(千病)
5 (水)	基礎教授連絡会 大学院運営委員会 大学院研究科委員会 リスクマネージメント部会(千病) ICT会議(千病) 輸血療法委員会(千病) 臨床検査部運営委員会(千病)	18 (火)	国際交流部運営委員会 医療連携委員会(千病) 部長会(市病)
6 (木)	TDCビル総合防災訓練 カルテ指導委員会(千病) 感染制御委員会・ICT委員会(市病) 研修管理委員会(水病)	19 (水)	図書委員会 輸血療法委員会(市病) 衛生委員会(市病) CPC(市病)
7 (金)	大学院入学試験(Ⅱ期)合格発表 第63回歯科衛生士専門学校卒業証書授 与式	20 (木)	講座主任教授会(臨時) 人事委員会 機器等安全自主点検日 手術室運営委員会(市病) 診療録指導委員会(水病)
8 (土)	一般入学試験(Ⅱ期)・大学入試センター 利用試験(Ⅱ期)・編入学試験B・学士等特 別選抜B	24 (月)	5年生臨床実習プログレス期間開始[～ 4/26] 教務部(課)事務連絡会 褥瘡対策検討会(千病) NSTカンファレンス(市病) 教職員研修会(水病)
10 (月)	3・4年生総合学力追・再試験 臨床教育委員会 千葉病院部・科長会(千病) 個人情報保護委員会(千病) 医療安全管理委員会(千病) 感染予防対策委員会(ICC)(千病) 給食委員会(千病) 医局長会(千病) 医療安全管理委員会(市病)	25 (火)	倫理委員会・利益相反委員会 薬事委員会(千病) データ管理者会議(千病) カルテ整備委員会(千病) 診療記録管理委員会(千病) 若手医局員のためのプログラム(千病) 診療報酬改定説明会(市病)
11 (火)	5年生総合学力追・再試験 臨床教授連絡会 講座主任教授会 人事委員会 5年生臨床実習保留者発表 歯科衛生士専門学校教員会(千病) 医療ガス取り扱い研修会(市病) 購買委員会(市病)	26 (水)	情報システム管理委員会 歯科臨床研修修了式(千病) 糖尿病教室(市病) 糖尿病教室カンファレンス(市病) 診療報酬改定説明会(市病) データ管理者会議(水病) 病院連絡協議会(水病) 診療録管理委員会(水病)
12 (水)	4年生共用試験(CBT)追・再試験 5年生臨床実習保留者試験期間[～14日] 大学院運営委員会 大学院研究科委員会 救急委員会(市病) リスクマネージメント部会(水病) 薬事委員会(水病) 医療機器安全管理委員会(水病)	27 (木)	理事会 評議員会 管理診療委員会(市病) 医療安全管理委員会(水病) 感染予防対策委員会(水病) 個人情報保護委員会(水病) 科長会(水病)
13 (木)	1・2年生総合学力追・再試験	31 (月)	第131回歯科医学教育セミナー

東京歯科大学広報 編集委員

橋本貞充 (委員長)

阿部潤也 石塚順子 井上直記 上田貴之 王子田 啓 椎名 裕 中村弘明
日塔慶吉 旗手重雅 久永竜一 藤倉隆行 前田健一郎 百崎和浩 山本祐樹
(平成26年3月現在)



編集後記

平成26年3月15日。第119期123名の卒業式は、水道橋校舎新館、新血脇記念ホールで行なわれる、晴れがましく記念すべき初めての卒業式となりました。

千葉・稲毛のキャンパスには、彼らが戸惑い、悩み、泣き、そして笑い合いながら、手探りで一歩ずつ前に進んできた6年間の確かな足跡が残っています。たくさんのまわり道のあと、同級生のみinnで歯科医師となることを目指し、互いに支え合い励ましあって、数々の難関試験、そして国家試験を戦った仲間との、たった一度の119期生、水道橋での卒業式です。

式の最後に壇上に立った119期生代表の大津雄人君の答辞の中には、たくさんの“仲間”という言葉がありました。汗をかき、涙を流し、助け合って困難を乗り越えてきた仲間。うまくいかずに落ち込んだときに、笑顔と元気をくれた仲間。卒業試験、そして国家試験に向けて、学年がひとつになっているように感じられた充実した時間。何よりも、素晴らしい、大切な仲間に出会えた最高の6年間であったことが伝わります。

大学院生たちの卒業…。3年間を過ごした歯科衛生士の卵たちの卒業…。それぞれの卒業生たちの胸の中にある、学生時代の忘れられない思い出。ほろ苦さと痛みを内に秘めた思い出たちは、ずっと後から振り返ったときには、いつのまにか、かけがえのないものになっているもの。

誰かと比べるわけではなく、比較されるわけでもなく、卒業生達は、ひとり、自分が主役となって歯科の世界に歩を進めます。これからは、ひとりの歯科医師、そして歯科衛生士として。

(広報・公開講座部長：橋本貞充)



「枯れ草色のタイル」

四半世紀以上前のこと。確かにここには、枯れ草色のタイルで飾られた東京歯科大学のモダンな校舎が建っていました。水道橋校舎本館エントランスのイタリア産大理石の隙間に嵌め込まれた旧校舎のタイルは、80年以上の時を超えて、これからも東京歯科大学の移り変わりを見守っていきます。